

<平成27年度>

鳥取県文化芸術事業

評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

～ 目 次 ～

I 総合評価	1
II 実施結果概要	
1. 実施事業一覧	5
2. 評価の体系	5
III 事業別評価	
1. ミュージカル連盟第1回合同公演「真名井の水は天の水」(鳥取県ミュージカル連盟)	6
2. 第6回とっとり伝統芸能まつり(鳥取県地域振興部文化政策課)	10
3. 第59回鳥取県美術展覧会(鳥取県地域振興部文化政策課)	14
4. 第13回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2015 中部地区事業(中部地区企画運営委員会)	16
5. 第13回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2015 西部地区事業(西部地区企画運営委員会)	20
6. 第13回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2015 東部地区事業(東部地区企画運営委員会)	24
7. 第13回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2015 メイン事業 オペラ「魔笛」(とリアートオペラ公演実行委員会)	28
8. 県民による第九米子公演(県民による第九米子公演実行委員会)	34
9. 第37回鳥取県書道連合会展(鳥取県書道連合会)	38
IV 専門家評価	40
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	43
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告執筆担当一覧	44
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	45
○鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	46

I 総合評価

1. 今年度の評価方法

評価方法は、昨年度と基本的には同様である。大項目、中項目を達成するための小項目の目標は、各事業の実施者に設定してもらった。

評価の客観性を確保するため、各事業とも複数名の評価委員が検証することとしたほか、事業開催当日のみを対象として評価するのではなく、プレ事業やリハーサル、委員会の様子など、制作過程や関連事業などについてもできる限り実地検証を行い、評価の材料とした。

その上で、実施者が設定した目標に対する自己評価、観客アンケート、実施者アンケートなどを踏まえて、実地検証した委員それぞれが評価レポートを執筆。そのレポートを、事業ごとに定めた主筆・副筆担当が総合的にまとめたものを委員会で議論、意見交換し、検討した上で各事業の評価原案を作成した。

実施者との認識の相違や事実関係の誤認防止のため、事業実施者を対象に評価報告会を開いて評価原案を提示。実施者から意見や指摘をいただいた上で、より適正な内容や表現となるよう原案を修正し、評価報告書としてまとめた。評価報告会は、報告書をよりよいものにするだけでなく、実施者と評価委員との相互理解の場として、必要不可欠なものになっている。

達成度は、昨年度と同様に「達成」3点、「概ね達成」2点、「一部達成」1点、「未達成」0点と数値化し、パーセンテージで表した。なお「未評価」については、達成度のパーセンテージから除外している。

報告書は、本編と資料編から成る。本編は実施者の自己評価コメントと評価委員会のコメントを併記。写真も組み入れ、事業の様子を分かりやすくした。資料編には入場者数やアンケートなどの数値的な定量目標と実績を表記。事業ごとにグラフ化もし、視認しやすい内容としたほか、各事業のチラシも掲載した。

2. 今年度の事業評価

評価対象とした事業は、次の通り、合わせて9事業である。

とりアートの事業についてはプレ企画事業やリハーサルなども含めて検証。鳥取県文化政策課主催事業は鳥取県美術展覧会の公開審査も実地検証し、それぞれ評価の判断材料とした。鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業については、助成金額の大きな基本型モデル事業のみに絞って評価対象とした。

- ① とりアート・メイン事業（1事業）
- ② とりアート・東、中、西部の各地区事業（3事業）
- ③ 鳥取県文化政策課主催事業（とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会の2事業）
- ④ 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業の基本型モデル事業（3事業）

（1）とりアートメイン事業 オペラ公演「魔笛」

原語上演によるオペラの中に、オロチの神楽や時事ネタなども盛り込んで、本格的ながら親しみやすい演出がなされていた。アンケートの回収率は低かったものの、その中で観客の満足度は91%と高く、専門家評価でも「非常に満足度の高い公演」とされており、これらは評価委員会の検証結果と同様である。プレ事業の「ガラ・コンサート」も素晴らしく、本公演への期待を膨らませるものであった。観客数も昨年のメイン事業が2回公演で675人とどまり、集客を課題として指摘していたのに対し、魔笛は1回公演で822人の実績であった。効果的な広報が実を結んだと考えられる。総合的に大きな成功を収めた事業といってよい。

次年度に対する課題としては、今公演でのアンケート回収率が14.2%にとどまったことである。会場ではスタッフが積極的にアンケート記入を呼び掛けており、回収に向けた努力は評価したい。事業実施者からは、オペラではあまりアンケート回収しないのが一般的という説明を受けた。自主公演であればそれでよいのだが、2,000万円以上の県費を使って開催されるメイン事業であるため、来場者である県民の声を収集して今後活かしていく必要がある。その意味でも次年度のメイン事業ではアンケート回収率の向上を求めたい。

昨年も指摘した通り、過去のメイン事業の多くは、いわゆる単発の打ち上げ花火で終わっている。公演成果が規模を縮小した再演や地域と同様な事業の取り組みなどとして、地域の財産となって根付いたのはわずか1事業だけである。基本的な問題として、新生とりアートとなって以降、メイン事業公演の事業実施者である委員会は事業が終了すれば無くなってしまおうというシステムの中で、巨額の県費を使って開催されるメイン事業の成果を今後活かすにはどうすればよいか、とりアート全体として考えていくことが求められる。今公演の「魔笛」に関しては、出演者の多くが鳥取オペラ協会員であり、原語の発音指導など専門家による訓練を受けたことは活動者のレベルアップにつながったであろう。それらが今後の県内での活動に活かされることを期待する。

(2) とりアート各地区事業

今年度の地区事業においては、課題のひとつであった来場者数のカウント方法について、評価委員会より注文を出した。これまでは来場者数が、のべ人数だけであり、例えば1人が10の催しを周遊すれば10人としてカウントされていた。もちろん魅力的な企画が多ければ周遊人数は増えるわけで、その点はよいのだが、このシステムだと企画数によって来場者数が大きく変動し、年度ごとの比較が難しい。また、アンケート回収率は来場者数ではなくパンフレット配布枚数を基準とするため、来場者数と回収率の実態がかけ離れたものとなる。そのため評価シートには、のべ人数と合わせてパンフレット配布枚数も記載してもらうこととした。これは実質的な回収率を検証すると共に、次年度以降に向けて、より実数に近い来場者数を把握して広報や企画構成に役立ててもらうのを期待してのことである。

まず、東部事業については、12月中旬の開催であった。昨年に増して会場レイアウトが工夫され、優れたワークショップやステージイベントが多くみられた。一方で、普段触れることのないジャンルのステージがかなりあり、観客数にばらつきがあったのは残念である。メインステージは気軽さという点では良いが出演者も鑑賞者も集中できる環境にあるかといえば、やや難があったのではないかと感じる。

若者の参加が目立ち、参加型の企画も多く世代間交流や伝統文化継承の点では有意義であったが、観客の少なさを補う工夫が必要である。

なお、評価シートの自己評価欄に成果と合わせて課題も記載されており、事業改善に向けた前向きな姿勢が感じられる。自己分析した課題と外部の評価委員の視点でみた課題をすり合わせて検証し、よりよい事業としてほしい。

中部地区事業は、10月末と11月1日という気候の良い時期に開催された。昨年度は事業実施者側の視点で組まれたレイアウトやプログラムであると感じたが、今年度は飛躍的に改善され、来場者の視点に立った構成となっていた点をまず評価したい。また、小ホールが有効に活用され、和太鼓コネクションや合唱フェスなどさまざまな催しが開催されていた。テーマに掲げた「次世代育成」にちなんだ企画が盛りだくさんで、会場は多くの家族連れでにぎわっていた。のべ人数が1万人を超えたのも、これらの成果であろう。アンケート回収率も6割以上と高かったのは素晴らしい。

多くの来場者が訪れて「裾野の拡大」が図れている一方で、「頂点の伸張」についてはまだ不十分な面があるようだ。他の場所では体験できない「とりアートならでは」のワークショップや、質の高いステージイベントを増やすなど、今後の課題として取り組んでほしい。

なお中部地区事業が長年育成にかかわっている中部少年少女合唱団MIRAIが、平成28年3月開催の中高生らによる倉吉ユースクワイア「にじ」の初公演ミュージカルに賛助出演している。同公演がとりアート2015中部地区協力事業に位置付けられるなど、広く知られてはいないが地区事業開催日以外にも活動の取り組みを展開していることを付記しておく。

西部地区事業は、11月下旬に日野町でステージパフォーマンスを開催。展示・ワークショップは2月上旬に米子市、3月上旬に日野町という、2部構成で時期も会場も別々という野心的な取り組みであった。新しい試みは手探りの部分もあろうし、賛否もあると思うがチャレンジし続ける姿勢は評価したい。特に西部地区を巡回することで多くの地域住民に参加しやすい機会を提供できたのは大きな成果である。

しかしながら、それぞれが単独開催することで日程や会場などが分かりにくくなり、とりアート西部地区事業としてのイベント全体がつかみにくく、ややぼんやりとしたものになってしまっていたのは、残念な点である。

広報についてだが、とりアート全体に共通して、他地区の事業のフライヤー（チラシ）を見る機会に乏しかった。関係者の熱心な活動の割に、県民に「とりアート」というものが広く浸透しないのは、地区が個々に事業前を出すプログラムが一因かもしれない。もちろん早目の広報は必要なのだが、3地区およびメイン事業の日程が決まった時点で作成した簡単な共通チラシなどが長期にわたって県民の目に触れると、集客にプラスに働くのではないかと感じる。各地区委員会の個性を生かした自主的なチラシも大切だが、同時に全体としてのまとまりを考えた広報が必要となる。とりアート通信も、倉吉未来中心のような文化施設には当然あるのだが、元来そういった文化施設の利用者は、とりアートの情報に接する機会が多い。問題はそれ以外の県民へのPRである。文化活動者があまり行かない施設。例えば陸上競技場やB&G海洋センターなどで目にする機会はなかった。

中部地区においては、ある程度の集客があり、広報については企画者それぞれの集客努力によって鑑賞者を集めている面があり、その点は評価に値するが、逆に新規の参加者や集客の少ない企画の参加者を増やす努力は必要であり、工夫が求められる部分であろう。

東部地区では、出演者や関係者がインターネットでフェイスブックやツイッターなどのSNSを利用してPRしているのはよく見かけたという評価委員の声があるが、SNSを利用していない世代には伝わらず、全体的に広報力は弱い面があると感じる。

西部地区においても、やはりフライヤー（チラシ）をあちこちで見かけることは少なかった。特に今回は会期が数日に分かれ、広報もギリギリになるようなものもあったようだ。

とりアート全体の総合的な広報について、いま一度、原点から考えてみてはどうか。

最後に共通の課題というか注文として、小項目の目標設定や自己評価について、可能な限りカタカナ用語の多用は避けて、県民誰でもが分かりやすい表現にされることが望ましい。実際のところ、街を歩いている県民に「ノーマライゼーションを目指した企画を創作していく」と言ってみても、何人がその意味を正しく理解するだろうか。評価報告書は文化芸術の活動者や用語に詳しい人のみで共有するものでなく、広く県民に公開されるものであることに留意が必要である。

（３）鳥取県文化政策課主催事業

「第 6 回とっとり伝統芸能まつり」では、入場者数が 1,153 人と、目標の 1,000 人および昨年度実績の 956 人を上回った。アンケート回収率も目標の 40%を達成し、満足度も 98.9%と高く、定量実績で良い結果を収めたことは高く評価したい。

ちんどん屋による事前広報や当日のパフォーマンスは、高齢者にはなつかしく、若い世代には新鮮な取り組みであった。また、高校生ボランティアが当日運営に寄与していたのも良かった。

伝統芸能の鑑賞者は高齢者が多く、活動者側においても客層に比例して年配の人が多く見受けられる。しかしながら迫力あるパフォーマンスの中には表現に体力を必要とするものもあり、若い者でなければ演じることが難しいものもあるため、長期的視点で考えて若者活動者の育成は不可欠である。

鑑賞者には高齢者が多いわけだが、お年寄りの場合、演技中にもかかわらず大きな声を出されて着席されることもあり、鑑賞マナー向上の呼び掛けも積極的に取り組む必要がある。また、この時のスタッフの案内の声も大きく、他の鑑賞者の妨げとなっていた場面もあった。演技途中の入場対応なども考慮する必要がある。開場時に受付に混乱が生じていたが、高齢者や車椅子での鑑賞者の多い催事であることは分かっているので、状況に応じて開場時間を 30 分早めるなどの工夫も必要となろう。

「第 59 回鳥取県美術展覧会」（県展）について、まず特筆したいのはアンケート回収率が飛躍的に改善されたことである。一昨年度は 9.2%と 1 割に満たなかったため評価委員会として向上を求めたものの、昨年度はさらに下回る 8.3%にとどまったため、要改善事項として指摘していた。それが今回は、回収率 20.9%と大きく向上した。中でも中部会場は 31.3%と高く、来場者の意見を汲み取るのに有効な数値である。回収率向上の要因は、評価委員からも「アンケート記入の声掛けがあり、昨年と違うと感じた」との意見があったように、受付での声掛けなどの成果である。

各会場でのギャラリートークの実施や、書道の積文など、より親しみやすく、分かりやすいものにしようとする取り組みは継続してもらいたい。

一方で、来場者数については課題を残した。会場側の理由などで会期が例年に比べて短くなることを考慮し、評価委員会では、来場者数について目標達成度や昨年度実績と比較するのに当たり、単純に来場者総数で評価するのではなく、1 日当たりの来場者数を指標としたのだが、目標（229 人／日）および昨年度実績（207 人／日）を下回る 185 人／日にとどまった。原因としては事業実施者より、日南会場において、例年なら同時に開催されている地元の催しと会期が合わなかったため、その催しの来場者の集客分が減少したためである旨の説明があった。他事業との連携による来場者数向上も必要だが、「別の催しのついで」ではなく、県展そのものに来場してもらえようようにしていかなければならない。

また、県展だけの問題ではないが、広報不足が否めない。これだけ会期の長い催しでは、最初に新聞広告を 1 度掲載しただけでは県民の意識に残りにくい。予算の問題もあろうが、適時広告を掲載するなど露出を増やしていくことが必要。アンケートの中には、出張で米子に来た九州の方より「たまたま開催を知って会場に立ち寄ったが質の高さに驚いた。もっと広報すればよいのに」という声もあった。ぜひ積極的な広報に取り組み、質の高い作品を多くの県民に鑑賞してもらえようようにしてほしい。

県展は次年度、「第 60 回」という節目を迎える。アンケートの声を反映させて、県展を県民とともに発展させていくことが大切だ。

（４）鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業・基本型モデル事業

これまでは評価対象事業数が多く、ジャンルごとに舞台系、展示系、文芸系としてまとめていたが、今年度は対象が 3 事業のため、個別に書くこととする。

第 1 回鳥取県ミュージカル連盟合同公演は、入場者数が 2 回公演で 882 人と目標を超え、アンケート回収率は 60.3%と今年度の評価対象事業でトップ。その高い回収率で満足度が 93.2%と、定量目標は完全に達成し

ていることは高く評価できる。地域の歴史資源である上淀廃寺を題材とし、新人が多く出演する舞台で神楽とのコラボなど意欲的な取り組みは素晴らしい。ただ、同連盟としては初の合同公演ということで、主管劇団以外のPRや関わりについて課題を残した。今後は連携を強めて取り組んでほしい。また、パンフレット挟み込みチラシの中に産廃建設問題について特定意見のものがあつたが、県文連助成事業では政治や宗教、特定の市民運動などについては中立の立場を守るべきで、挟み込みの可否が不明なチラシの場合は県文連事務局などに相談することが望ましい。

県民による第九米子公演は、入場者数1,000人、アンケート回収率35.9%、満足度89.1%と、いずれも定量目標をクリアしている。ソリスト、オーケストラ、合唱とも充実した内容で、長年の蓄積の成果が結実していた。指揮者による曲目解説などの新しい試みも、分かりやすく良い取り組みだった。

総合的に充実した公演ではあるが、高校生以下の当日券入場者が1枚だけで、若い年代の鑑賞者と活動者の育成が今後の大きな課題であり、事業実施者もこの点は把握しておられる。すぐに効果の出るものではないが地道に育成の努力を行ってほしい。

第37回鳥取県書道連合会展は、入場者数は1,026人、満足度も89.3%と目標を上回ったが、アンケート回収率については目標の20%を下回る13.6%にとどまった。昨年実績が40.2%と高かったことを考えると、来場者の声を吸い上げるためにも回収率向上に取り組んでほしい。

広報面においては各所でポスターも目にし、新聞など多角的な取り組みが奏功してか、初めての来場者が全体の4割以上あり、新たな鑑賞者の掘り起しに成功していることは素晴らしい。「童謡・唱歌を書く」も、書道に親しみのない人にも分かりやすく高く評価したい取り組みである。これが定番化しているのは良いことではあるが、同時にマンネリ化を防ぐためにも、新たな企画への挑戦も検討してほしい。

3. 今後の評価に向けて

近年、とりアートの各地区事業について、会期や会場を完全に分けて開催したり、商業施設での一部開催など多様化が進んでいる。評価システムもそれに合わせて柔軟な変化が求められており、従来のように開催当日だけでは、本質的な評価ができない環境となった。一方で、鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業においては、事業評価の声を反映して年々改善されており、同事業については助成規模の大きな基本型モデル事業のみを評価対象とした。その分、とりアートなど他の事業も含めて、イベントや創り上げる過程の一部なども実地検証し、評価に資することとした。

しかしこの評価スタイルも模索しながらであり、まだ完全なシステムにはいたっていない。例えばイベントを担当評価委員が日程的に実地検証できない場合は、担当外の委員を募り、実地検証の上、レポートを提出してもらうという柔軟な対応をした。今後はより効果的な評価ができるようなシステムを確立する必要性を感じている。

全ての分野に共通する課題として、少子高齢化と人口減が進む中で文化芸術分野の活動者も鑑賞者も少なくなる傾向にある。将来のためにも活動者や鑑賞者の育成は待ったなしの状況だといえる。

若者の育成はもちろんだが、定年退職を迎えられたばかりの方には、心身ともに元気な方が多く、新たにグラウンド・ゴルフなどの活動を始めて生きがいにしておられる県民も増えている。身体健康増進のためにスポーツに取り組むのも大変良いことだが、その円熟した感性で、新たに文化芸術の分野で活動される方が増えてほしいと思う。

県展では、これまでアンケート記入コーナーを設けているだけだったものが、今年度は積極的な声掛けにより回収率が飛躍的に向上した。これは漫然と待つだけでなく自らが動いていくことで成果を出した一つの例である。活動者や鑑賞者を増やす取り組みも基本的には同じといえる。文化芸術活動に参加したり鑑賞することが、その人自身の人生を豊かにすることを、既存の文化芸術団体や個人活動者がもっと声を大にしてPRしていく必要がある。

その意味で、事業実施者には活動者や鑑賞者の育成、増加を目標の一つとして掲げて、積極的な取り組みをされることを期待する。

平成28年3月

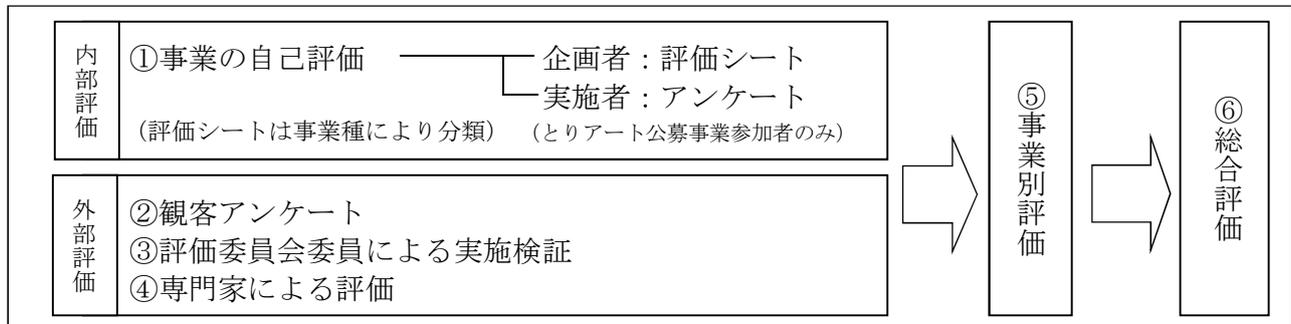
鳥取県文化芸術事業評価委員会
会長 尾上 明

II 実施結果概要

1. 実施事業一覧

番号	主体	団体名	期日	事業名	実績(目標)				
					入場者数 (人)	アンケート配布 枚数(枚)	アンケート回収 枚数(枚)	アンケート 回収率	満足度
1	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県ミュージカル 連盟	4月25日(土) 26日(日)	ミュージカル連盟第1回合同公演 ミュージカル「真名井の水は天の水」	(800) 882	882	532	(30%) 60.3%	(80%) 93.2%
2	鳥取県	鳥取県地域振興部 文化政策課	5月24日(日)	第6回とっとり伝統芸能まつり	(1,000) 1,153	1,153	462	(40%) 40.1%	(95%) 98.9%
3			9月19日(土) ～11月22日(日)	第59回鳥取県美術展覧会	(8,000) 6,479	6,479	1,354	(20%) 20.9%	(95%) 91.9%
4	鳥取県総合 芸術文化祭 実行委員会	中部地区企画 運営委員会	10月31日(土) 11月1日(日)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015中部地区事業	(7,000) 10,829	1,640	844	(30%) 51.5%	(90%) 94.4%
5		西部地区企画 運営委員会	第1部 11月21日(土) 22日(日) 第2部 2月5日(金) ～2月8日(月) 3月4日(金) ～3月7日(月)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015西部地区事業	(760) 1,923	1,138	553	(60%) 48.6%	(70%) 98.2%
6		東部地区企画 運営委員会	12月12日(土) 13日(日)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015東部地区事業	(7,000) 6,289	1,887	313	(20%) 16.6%	(85%) 93.9%
7		とリアートオペラ 公演実行委員会	11月15日(日)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015メイン事業 オペラ「魔笛」	(800) 822	822	117	(20%) 14.2%	(70%) 91.5%
8		県民による第九 公演実行委員会	11月29日(日)	県民による第九米子公演	(1,000) 1,000	1,000	359	(30%) 35.9%	(85%) 89.1%
9	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県書道連合会	3月4日(金) ～3月8日(火)	第37回鳥取県書道連合会展	(800) 1,026	1,026	140	(20%) 13.6%	(80%) 89.3%

2. 評価の体系



Ⅲ 事業別評価

ミュージカル連盟第1回合同公演「真名井の水は天の水」(鳥取県ミュージカル連盟)

平成27年4月25日(土)・26日(日) 米子市文化ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	地域の伝統芸能の継承者と連携し、事業を推進します。(日野高校)	達成 なかなか観る機会の少ない、大蛇の神楽をミュージカルという異なったジャンルの中で、ストーリーの一部として観てもらうことができた。	達成 内容的に緩やかなストーリーで、前半少しマンネリ化していた場面に現れた大蛇の神楽は、観客に刺激を与え気持ちも新たに鑑賞することができ大変良かった。高校生の頑張りに感動した。
		子どもの伝統芸能活動団体の発表の場を設けます。(日野高校)	達成 高校生が日々練習を続けている伝統芸能を、多くの人に観てもらう場を作ることができた。	達成 日野高生の神楽は今公演で最も素晴らしかった。子どもの伝統芸能活動団体には他のジャンルもあると思うが、発表の場を提供できたのが神楽の1団体のみであったのは残念。
	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	上淀廃寺の建立にフィクションの物語をあたえることにより、より興味を抱いてもらいます。	達成 金堂と3つの塔が建っていた遺跡のみが残っているがストーリーを与えることによりリアルに当時を想像してもらうことができた。	概ね達成 フィクションとはいえ歴史的にありえない設定の物語で、ストーリーとしての面白さはあまり感じなかったが、地元の人が地元の歴史資源を題材にし、地元鑑賞者の興味を喚起したことは評価できる。
		鳥取の文化アイデンティティの確立	県内各地のミュージカル団体を紹介し、ミュージカルが盛んな文化アイデンティティの確立に努めます。	達成 ロビーにおいて各団体のポスターやチラシを掲示し紹介することによって、ミュージカルが盛んな鳥取県であることを知ってもらうことができた。
	誰もが気楽にミュージカルに参加できることを紹介します。		達成 新人11人が出演し、はじめての人でも誰でも挑戦できることを知ってもらえた。	達成 近所にいるような子どもたちが、ステージに立つと役者として生き生きと演技している様子が印象的だった。これらが一過性のものにならないようにすることが大切だと思う。
	創造	質の高い文化芸術活動	オリジナル脚本をブラッシュアップすることにより質の高い作品になるよう努めます。	一部達成 完成が遅れ修正する時間が短かった。

創造	質の高い文化芸術活動	異なる文化芸術ジャンルの団体との連携を図ります。(荒神神楽)	達成 ストーリーとの関係性の説明を行い、場面にあった構成を考えていただいた。	達成 神楽とのコラボは良かった。他ジャンルとの連携に向けての裏側の地道な努力は、鑑賞者には直接見えてはこないことだが、その努力も評価したい。
		プロとの連携・協働により質の向上を図ります。(上萬雅洋・作曲家)	達成 作曲、編曲、歌唱指導、演出がすべて同じ人であり、制作の意図が正確に浸透、伝わった。	一部達成 時代設定や衣装がちぐはぐで、いつの物語なのか分かりにくく、この点、質の担保が不十分。音楽面は、作曲家による直接指導ができていたが、歌声が音楽(音量)より小さい場面があったのは残念。
	県民の参画支援	幅広い年齢構成の出演者の舞台上でも参加できることを理解してもらいます。	概ね達成 6歳から50歳代までの男女で構成し、どの年代も出演者がいた。経験の長短もさまざままで身近に感じてもらった。	達成 出演者の年代の幅は広く、設定目標を達成している。 一般論だが、誰でも参加、となると身内だけの自己満足になってしまうことがあるので、そうならないように磨きをかけてほしい。
		ボランティアを公募し広く県民が文化事業に携わる機会を提供します。	概ね達成 地域住民、保護者などにスタッフとして関わっていただき、舞台のおもてや裏を体験していただいた。	概ね達成 目標は、保護者のスタッフ参加ではなく、広く一般ボランティアを募集して舞台に関わってもらうことであろう。その意味では、地域住民などの参加が得られた点は評価したい。
拡大	県民の文化活動支援	新たに文化芸術活動を始めたい県民の方をサポートする仕組みや体制を作ります。	概ね達成 入団希望者を公演前に稽古場に招待し、公演もみていただくことにより、新たに2家族3名の入団があった。	概ね達成 入団希望者の稽古見学や公演鑑賞は、舞台系団体が日頃から行っており珍しいものではない。目標に掲げた、サポートする仕組みや体制を作れたかどうかと、増えた活動者の今後の育成が大事。
		神楽を伝承している高校生により多くの発表機会を提供します。	概ね達成 伝統芸能としての発表の場はあるものの、違う客層の前での発表機会はほとんどない高校生に新たな発表機会を提供することができた。	達成 普段は伝統芸能系の催しでしか観ることができない、高校生のインパクトある神楽を、他のジャンル(ミュージカル)の鑑賞者に対して観る機会を提供できた。
	県民への鑑賞機会の拡大	会場を今までの淀江から米子駅前の文化ホールに変更し、交通の利便性を向上させます。	達成 淀江の劇団というイメージのある「ゆめ」がミュージカル連盟の一員として米子駅前で公演したことは、その存在を広く多くの人にアピールすることができた。	概ね達成 本公演は「ゆめ」が主管の「県ミュージカル連盟公演」であり、通常の「ゆめ」公演に補助金が出されたものではない。連盟公演会場が米子市文化ホールだったのは交通の利便性という点で良かった。
		障がい者スペースの拡大と託児室を確保し、身体の不自由な方等が鑑賞しやすい環境整備を行います。	達成 事前にホールに申し入れをし、障がい者のスペースを4倍に増やしていただいた。ストレッチャー2台を含め車イスの人が10名観劇できた。(2日間)	達成 当日は障がい者の観客の姿もみられたが、ホールへの対応申し入れなどの積極的な取り組みで環境を整え、事前の来場把握が出来ていることで十分な対応ができていた。

拡大	県民への鑑賞機会の拡大	広く県民への周知を図るため、様々な媒体を利用します。(TV、ラジオ、新聞)	達成 山陰放送のテレビ、ラジオを多用、他に中海テレビ、新日本海新聞、ダラズFM、チラシ折込など多岐にわたって広報した。東部、中部のホール、加盟団体による広報もお願いした。	達成 西部地区以外でもポスター、チラシを見かけることがあった。アンケートでは、公演を知った媒体のほとんどは知人友人だが、ポスター、チラシがそれに次いでいる。さまざまな媒体の利用は評価したい。もう少し早くPRに取り組むとなお良いのでは。
		新人の発掘及び育成を行います。(出演者11人が新人)	概ね達成 新人11人が無事、初舞台を経験。新人とは思えない落ち着きで、充分練習の成果を発揮することができた。	概ね達成 新人11人の初舞台については他の目標でも出ており、自己評価が重複している。この項目では「どうやって新人を発掘したか」「その育成は具体的にどうしたか」を、自己評価で示してほしい。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	公演当日の運営を円滑にするためのスタッフリーダーを育成します。	概ね達成 保護者スタッフのなかからリーダーを指名。どの部門も責任感が強く任せることができた。	概ね達成 保護者リーダーの指名は良いことと思うが、それがイコール、スタッフリーダー「育成」となったのかは自己評価からは分からない。
		子どもたちへの鑑賞機会の提供	子どもが鑑賞しやすい料金設定を行います。(子ども料金800円)	概ね達成 子ども前売り800円であったが、子どもの団体料金を設定し、学校、子ども会などへのアプローチが必要であった。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	西部圏域の多くの小、中学校にポスター、チラシを送付、鑑賞機会を提供します。	概ね達成 市内は100%達成。郡部で一部カバーしきれない学校があった。	概ね達成 各学校へのチラシ送付は良い取り組み。子どもたちに鑑賞機会を与えるためにも等しく情報(チラシ等)が行き渡るようにしてほしい。
		総括	82.5%	75.4%



【成果】

- ・入場者数、観客満足度、アンケート回収率とも目標を上回り、定量目標を十分達成している。
- ・上淀廃寺などを取り上げた物語で地域の歴史資源を発掘し、文化芸術で発信し、神楽とのコラボや手話の取り入れなど意欲的な取り組みがなされた。
- ・アンケートでは出演者の実力がバラバラという声もあるが、新人も多く、そもそもプロの公演ではない。地域住民がミュージカルに参加、出演して活動することに大きな意義がある。
出演者のレベルUPは今後の課題であり、今公演では、新人11人の出演は大きな成果といえる。子どもたちのはつらつとした元気な様子も良かった。出演者の一生懸命さが伝わった。
- ・演出家自身も知人に電話で公演を観に来てほしいとPRするなど、全体的に広報努力は顕著である。

【課題】

- ・演出も兼ねる作曲家が脚本も担当していたが、作曲家は脚本の専門家ではないため、どうしても、物語の展開など脚本の質の担保が不十分となってしまった。
- ・フィクションとはいえ、時代考証があまりにずさんすぎる。物語には「王」が出てきて村人は勾玉をつけているなど弥生時代(2~3世紀)の様子一方で、多くの村人の衣装は古墳時代(5世紀)を彷彿とさせる。
そして物語の舞台は上淀廃寺建立のころなので白鳳期=飛鳥時代(7世紀末)であるから、衣装や設定と500年もの開きがある。いつの時代の物語なのか、観ていて混乱してしまい、ストーリーに入り込めない。
フィクションだから何でもあり、ではなく、フィクションだからこそ、ある程度、物語の世界を統一して構築しなければならないのは基本である。
- ・本公演は「ゆめ」が主管し、実質的には「ゆめ」の公演ではあるが、あくまでも県ミュージカル連盟主催公演である。ロビーの展示なども、他の加盟団体には展示をすることの連絡が周知徹底されておらず、バランスを欠いたものであった。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・パンフレット挟込みのチラシの中に産廃建設問題について特定意見のものがあつたが県文連の公演に挟込むチラシとして適切だったか。その団体の主張を否定はしないし団体関係者が会場外で観客にチラシを手渡したのであれば問題はない。
しかし公演の挟込みチラシについては、政治、宗教、特定の市民運動などについては中立の立場を守るべきで、文化芸術に関するチラシや地域イベントのチラシのみにするのが一般的である。
- ・公演終了後、ロビーに並ぶ出演者が1階席からの観客の通路や駐車券の機械を塞いでいた。全員が舞い上がらずに落ち着いて全体を見渡すスタッフが必要だと感じた。



第6回とっとり伝統芸能まつり(鳥取県地域振興部文化政策課)

平成27年5月24日(日) 米子コンベンションセンター

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	伝統芸能活動団体の意欲向上につながるため、功労団体の表彰を行うとともに、県内伝統芸能活動団体の発表の場を設けます。	<p>概ね達成</p> <p>表彰は地場産業の林業の発展にかかわる山郷杉太鼓が選定された。山郷小学校の学習として保存伝承に尽力されたことに表彰される。</p> <p>県内の古くは 500 年前から伝承されている芸能と始めて数十年とまだ新しい伝統芸能が融合して公演を実施。</p> <p>子ども歌舞伎など子どもの出演もあり、また、伝統芸能まつり初参加の団体もおり、今後、より多くの芸能団体に出演していただく事が、鳥取県内全域の継承へのモチベーションの向上につながってくる。</p>	<p>概ね達成</p> <p>表彰された「山郷杉太鼓」が地元の小学校の学習の中で保存伝承に尽力されている事は、伝統芸能が後世に引き継がれる為にはとても素晴らしいことである。表彰に相応しい「山郷杉太鼓」であったと思う。</p> <p>今回初参加の団体から経験ある団体の参加もあり、さまざまなグレードの差が目立ったが、表彰される事でモチベーションの向上にもなるので、今後も多くの団体参加を期待する。</p>
		若い世代に広く伝統芸能を鑑賞いただき、興味をもってもらうような工夫を行います。	<p>一部達成</p> <p>大掛かりな照明などによる演出によって、よりインパクトを強くして鑑賞者と出演者に喜んでいただけた。</p> <p>また、開場前の待ち時間では「笛の音」による新しい和芸と別地域の伝統芸能を若い人でも見やすいようにコンパクトに披露。</p> <p>当日のMCはよくテレビなどに露出している司会を使い、CMにも起用して若い世代にアピールした。また、高校生のボランティアに関係者として伝統芸能を鑑賞していただき制作の苦労を体験してもらいながら興味を持っていただくことが出来た。来場者は若い世代もおられたが、まだまだ年配の方が多かった。</p>	<p>一部達成</p> <p>メディアで有名な司会者を起用した事で進行がより和やかな雰囲気となり満足いくものであったと思う。</p> <p>また、舞台演出など大掛かりで楽しめるものとなっていた。</p> <p>高校生のボランティア活用は将来性を期待できるものだった。</p>
	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	ホームページ上で表彰・出演団体の活動状況を紹介するなど、県内伝統芸能の情報発信に努めます。	<p>概ね達成</p> <p>広報手段の1つのHPを実施。いつでも手軽に情報を見ることが出来ている。ただ、今後はSNSなどを有効に使うことも必要と思われる。</p>	<p>概ね達成</p> <p>HP や SNS の活用は今の時代主流となっている。広報の目標は的を得ている。しかし、提案だが観客の殆どが高齢者である為、高齢者向けの情報発信が必要であると思う。その点、参加者各自のクチコミは重要な手段ではないだろうか。</p>
鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県の地域に伝わる伝統芸能を多くの方々にとって興味を持っていただきます。	<p>概ね達成</p> <p>伝統芸能は地域と歴史とそこに住む人たちとの関連が重要である事を知っていたため、各演目前に、地域の特色や伝統芸能のバックボーンなどの紹介映像とナレーションを入れて、芸能と地域の繋がりを伝えた。</p> <p>また、公演終了後にはインタビューをして演者本人に自己 PR などをしていただいた。</p>	<p>概ね達成</p> <p>演技前の各団体の紹介映像は、演技を鑑賞する観客にとってわかり易く、これから始まる伝統芸能に興味を抱かせる為には効果的であったと思う。</p>	

創造	質の高い文化芸術活動	演目をコンパクトにまとめ、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容とするよう努めます。	達成 特に県内の団体には演目のコンパクト化に協力していただき内容の濃い、見ていて飽きない公演となった。県外ゲストの無形文化財の能や韓国の公演はプロの方なので質の高い公演を行い来場者を魅了していた。また、プロの司会を2名公演の合間に入れることにより、待ち時間を飽きさせず、終わった公演の余韻と次の公演の期待を持たすことが出来、公演に入りやすいように舞台が温まっていた。	達成 全体的に長時間ではあったが、各団体の演技がそれぞれ約10分程度の為、観客が飽きることなく楽しめたのではないだろうか。県外ゲストの無形文化財の「能」の演技はめったに見られない演目なので良い機会だったと思う。韓国の演技は華やかで圧巻であった。今後の集客にも繋がるので魅力あるゲストを研究して招いていただきたい。
拡大	県民の文化活動支援	高校生ボランティアを広く公募し、県民に文化活動に触れる機会を提供します。	達成 5/23、24の前日・当日に地元の6つの高校(境・境総合・北斗・米子西・米子南・米子白鳳)より90名以上のボランティアに来ていただいた。また、先生も引率として付いてきていただき、生徒の管理と生徒と一緒にボランティアをしてもらった。業務の内容は、前日の準備は街頭での広報・会場設営・配布資料作り・本番での対応のシミュレーション。当日は舞台の裏方(出演者のコントロールと舞台セットの手伝い)・受付・会場内管理・撮影補助・来場者へのおもてなし、など両日にわたって普段では体験できない業務を体験した。今回は初めから「返事」「笑顔」が出てきて、楽しそうに各ポジションの業務にかかわった。特に舞台のボランティアの中には進行を手伝うこともあった。随時、高校生に「大丈夫?」「きつくないか?」と聞いたりしたが、「平気です」「他に何かすることありますか」「ここは***の様にした方が良いと思います」「...」など終了して解散するまで元気よく楽しんでくれたようだった。そのような中で、ボランティアには公演を見る時間を交代で儲けていたが、その後、友人や我々に「**が迫力があつた」「**は昔見たことがある」など色々を見て、感じてもらったようだった。また、多くの来場者さんからも高校生ボランティアに好感を持っていただけようだった。 出来ればこの若い方々が伝統芸能により興味をもって、何らかの形でかかわっていただければ幸いと思う。	達成 ボランティアの高校生の活動が観客に良い印象を与えていたことがアンケートでも感じられた。スタッフとして参加の高校生にとっては生の伝統芸能を観て伝統芸能の素晴らしさを知る良い機会であったのではないだろうか。また、このような大きなイベントを開催するにあたっての大変さも分かっていたと思うので将来の活動に期待したい。
	県民の文化活動支援	県外・海外の優れた芸能と県内芸能とが交流することで、継承・技術の向上などや留意点の改善につなげていく。	達成 県外ゲストの無形文化財の能や韓国の公演はプロの方なので質の高い公演を行っていただけた。また、事業外ではあるが、祭り終了後、交流会を会費制にて実施。県内・北海道・韓国の出演された方々と進行・運営のスタッフも交えて情報交換などを行った。楽しい雰囲気の中で会話が弾んで、新たな繋がりが出てきた。	達成 プロによる県外と韓国のゲストの演技は印象が強く観客に感動を与えることが出来たと思う。次回のゲスト公演も期待したい。

	県民の文化活動支援	公演前において、その地域の特徴などをイメージ映像によって芸能と地域の繋がりに興味を持っていただき、ホールではなくその地域に行ってみてみたいと思っただけにする。	達成 各演目前に、地域の特色や伝統芸能のバックボーンなどの紹介映像とナレーションを入れて、芸能と地域の繋がりを伝え、その地域への興味を持っていただくようにできた。 アンケートの中にもこの映像については「伝統芸能が解りやすかった」などと高い評価を多くいただいた。	達成 各団体の紹介映像の企画は成功だったと思う。 伝統芸能が生まれたその地の紹介映像を見ることは「百聞は一見にしかず」というように、演技を観る前の心の準備ができ、いつしかその地に行ってみてみたいという衝動を起こすものであると思う。ロビーの展示も興味を持って見る事ができた。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	県外・海外の芸能団体を招聘し、地元の芸能団体と交流を図ることで、鑑賞機会の拡大と、文化芸術活動の裾野拡大を図ります。	概ね達成 能と韓国の踊りは見せ方を知っている演じ方をしていたことと、鳥取では普段見られない物なので大いに盛り上がった。各芸能団体は公演当日も時間の許す限りお互いに交流をしていた。	概ね達成 能と韓国の演技は各団体の刺激となり、いつか県外や海外でも披露してみたいと言う気持ちを起こす励みとなったのではないだろうか。華やかな韓国の舞踊は来場者にも楽しめる演技であったようだ。
		広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用した広報を実施し、効果的な広報に努めます。	概ね達成 学校・公共施設・商業施設・老人施設・県内全ての保存会等へのDM実施をはじめ、街頭でのちんどん屋とボランティアの広報活動やCM告知、新聞折り込み、ポスター・チラシ配布など、様々な媒体を活用した効果的な広報を実施し、誘客へ繋げた。 大きなイベントとかぶっていたにも関わらず、昨年を上回る集客となった。開場前9:30よりお客様が来られて、350名の方が待つ形になった。	概ね達成 興味があるかないかで広報の効果は変わってくるように思う。特にターゲットの絞れない広く一般にといいものにとってはこれからも効果的な方法を考える必要性を感じた。 今回、様々なきめの細かい広報が目標の1,000人以上の集客につながったのではないだろうか。
		ボランティアやちんどん屋で街頭PRを行い、広報の拡充はもとより舞台の外での演出により気運を高めていく。	概ね達成 戸板市・米子駅前・スーパートライアルにおいて高校生とちんどん屋とスタッフで広報をした。当日、前日の広報となるが予想以上に集客につながっているし、イベントの雰囲気も伝える事が出来て有効であった。	一部達成 ちんどん屋の風景は高齢者には懐かしく、若者や子供達にとっては目新しく人目を惹きつけるものであったと思う。伝統芸能に相応しいPRであると思うが、米子駅前広場というあまり地元の人が集まらない場所での活動は、折角のちんどん屋のPRも効果は感じられなかったと思う。提案としてイオン、みるくの里、水木しげるロードを挙げたい。
育成	人材育成（指導者、後継者等）	高校生ボランティアにイベント運営に携わってもらうことにより、芸術文化活動の後継者育成に努めます。	達成 上記、「県民の文化活動支援」の中に記されている。	概ね達成 多くの高校生ボランティアの参加で、伝統芸能というものに少しでも興味を持って頂けたら成功ではないだろうか。次回も伝統芸能に興味のなかった学生がボランティアとして参加する事で潜在意識の中に良い思い出となって残っていくと思うので期待する。次回は、より広範な高校の参加を期待したい。

育 成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	子どもたちに参加してもらうことで、伝統芸能への興味喚起を図ります。	一部達成 法勝寺子ども歌舞伎の参加だったが、管理する大人のシステムが確立されており、良い公演が出来た。子どもが参加する伝統芸能を見ることにより伝統芸能への興味を持つようになり、中には子どもは「自分も参加したい」、大人は「子どもにさせてみたい」と発展することが期待される。ただし、子どもの来場者数は少なかった。また、高校生ボランティアは伝統芸能に対してかなりの興味を持っていただけだった。	一部達成 出演することに重きを置き鑑賞してもらうことを忘れていた事が時々起こるので、来場者を増やすには、クチコミなど出演者一人ひとりの自覚が必要であると感じる。子ども歌舞伎は特に高齢者にとっては嬉しい舞台上で集客にも繋がると思うので、伝統芸能に携わる子どもたちの参加を今後も楽しみにしている。
		総括	74.4%	69.2%

【成果】

- ・入場者数が目標を達成出来たことで広報活動の努力を感じる。
- ・開演前や休憩中のちんどん屋等のパフォーマンスは、お年寄りや子どもたちの気持ちを和ませ長時間ながら飽きのこない企画であったと思う。
- ・多くの高校生ボランティアが来場者を気持ちよく案内されている様子が見られ、運営関係者の指導努力を感じる会場であった。
- ・伝統芸能を生で観た時の迫力と素晴らしさを、多くの若者に味わっていただきたいと思うステージが多かった。

【課題】

- ・「伝統芸能」というイメージだけで若者を惹きつけることは難しいが、実際には若い者でなければ演じることの出来ない迫力あるパフォーマンスの表現は体力を必要とするので、若者の育成は不可欠である。会場に小・中学生を招待するなどの企画も考えてみてはどうだろうか。
- ・演技中の観客の入場については、お年寄りの場合、演技中にも関わらず大きな声を出されて着席する事もあり、かなり気になった。この時のスタッフの案内の声もかなり気になった。演技途中の入場は他の観客の妨げにならないように、スタッフが一時的に後方の席に入場者を案内するというような配慮が必要ではないだろうか。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・開場時間前、受付にて入場者に入場整理券を配布し、ホールロビー内にて入場者が椅子に座って開場を待たれていたことは良かったが、その後、開場開始時間になって整理番号順に会場に入場するため受付に混雑が生じていた。高齢者や車椅子の観客が予想されるのであれば、開場時間をあと30分早めたらもう少しスムーズに入場できたのではないだろうか。検討していただきたい。
- ・自己満足にならないよう出場者も他の演技を数多く鑑賞して腕を磨き、歴史ある鳥取県の素晴らしい伝統芸能を日本中に広めていただきたい。



第59回鳥取県美術展覧会(鳥取県地域振興部文化政策課)

平成27年9月19日(土)～11月22日(日) 鳥取県立博物館ほか

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	審査の透明性を確保し、優秀作品に県展賞を授与します。	達成 事前に審査基準を定めるとともに、審査を公開し、その見学希望者を開催要項により募った。 また、出品者への審査結果の通知、運営委員の審査の立会など、審査の透明化に努め、公正に優秀作品に県展賞を授与した。	一部達成 審査の公開は継続がよい。だが、部門によってかもしれないが審査の進め方をよく理解していない(事前に徹底されていない?)審査員もおり、公開即透明性(公平)とは言い切れない。
		会期中の全ての来場者に対して、受付でアンケートの協力をお願いすることで回収率を向上し、県展の運営に県民の意見を積極的に取り入れます。	概ね達成 各館の受付で全ての来場者にアンケートの協力についてお願いした結果、アンケート回収率を大幅に向上させることができた。 【H26:8.3% ⇒ H27:20.9%】 多くの県民の意見を傾聴・検証し、次年度以降の開催に繋げていきたい。 【館別回収率】県立博物館:16.4%、米子市美術館 20.8%、倉吉体育文化会館:31.3%、日南町美術館 21.5%	概ね達成 回収率の大幅なアップは、入場窓口など係員の対応がよかったからだろう。今後も続けてほしい。鳥取会場は入場者減が結果として率のアップにつながったということは考えられないか。
	県民の参画支援	県展をより身近に感じていただくため、キャッチフレーズを設け、県民の参加を促します。	一部達成 キャッチフレーズの効果を図ることはできないが、結果として1日当たりの来場者数減となっている。【H26:207人 ⇒ H27:185人】 大きな要因としては、日南町美術館の来場者減であるが、これは昨年まで館周辺でおこなわれるイベントに併せて開催することで、多くの方々に来場いただいていたが、今年度はイベントと併せることができなかった。(来年度はイベントに併せて開催予定) 一般応募作品は微減【H26:533品 ⇒ H27:525品】	一部達成 キャッチフレーズがあったことを知らなかったが、誰が決め、どういう風に使われたのか。活用方法、周知方法などもっと広報に活用する工夫が必要である。
		本展以外の巡回展会場においても、ギャラリートークを行うことにより、受賞作品に対する理解を深めます。	概ね達成 ギャラリートークへの参加者が少ないことが懸案であったが、今年度は作品搬入時に全ての出品者へギャラリートークの案内チラシを配布することで、各館とも概ね盛況であった。	概ね達成 知人、所属団体等を通じ、ギャラリートーク担当者(作家)が宣伝していたのだろう。各会場とも盛況だった。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	書道部門において、作品と一緒に釈文を展示することによって、県民の作品鑑賞を支援します。	達成 昨年度からの取り組みである。釈文票についてのアンケート評価で「あった方がよい」という回答も昨年度より多くなっていることから引き続き実施していく。 【H26:78.0% ⇒ H27:83.9%】	概ね達成 応募者が提出した釈文が添付してあったと思うが、やはり統一した文字で、読み方などがついていればなおよかった。
		開会前の9月10日に日本海新聞による広報を行い、より多くの方への周知に努めます。	一部達成 従来の広報に加え、開会前に新聞広告を行ったが、大きな集客につながらなかった。広告記事の大きさ・回数(1回)にも原因はある。 予算との兼ね合いはあるが、より大きく広報を行いたい。	一部達成 会場ごとに開催前に新聞、テレビ、ラジオなどを使って開催告知するのがよい。会期、会場の分散に対応する必要がある。広報は検討課題が多い。
総括			66.7%	50.0%

【成果】

- ・要改善事項として指摘していたアンケートの回収率について目標を達成し、改善されていた。
- ・県民に作品発表の場が確保された。伝統を作りながら県展開催を重ねることに意味がある。
- ・県外審査員の採用は大きな意義がある。各審査員はいずれも現代の国内の水準にある人たちであり、県展開催中に公開講座や座談会、トークショーなどを企画することも考えてほしい。

【課題】

- ・出品者数のジリ減と入場者数の減少が県展最大の課題である。出品減(横ばい)は新しい(若い)出品者の発掘が少ないことが主な要因か。その中で、現在はデザインに分類されている(?)グラフィックアートの作品(アニメ、マンガ風な作品)は若い作家が多く、今後出品が増えることが見込まれるので、対応を考えてみてはどうか。
- ・入場者数減は原因がハッキリしているのではないか。鳥取会場はあきらかに展示日数の減少。日数が同じであれば昨年とほぼ同じ数字はあったものと思われる。日南会場は併催イベントがなかったことによるものだとすれば、県展の入場者をどう確保するかの検討を要する。同じ会場に足を運んでもらって県展も見てもらい、この取り組みを継続させることも意味がある。倉吉は例年と違う倉吉体育文化会館での展示だったが昨年来年をわずかながら上回った。固定ファン(出品関係者)がいるということか。米子会場がじりじりと減っているのはどういうわけか。
- ・県展に魅力をつけることを本気で考える時に来ている(出品者、鑑賞者など)。当然ながら、出品者が増えれば口コミなどで鑑賞者は増えるものと見られる。
- ・広報のあり方について昨年も提案したが、県展の話題づくりと主催者によるマスコミへの発表は必要である。そのためには制作者・出品者の情報を集めることが大切ではないか。例えば、県展受賞者が新聞の記事になっただろうか。テレビに取り上げられたらどうか。文化の情報発信としても大切なことである。これは委託した業者のみでは無理と思われる。新聞広告は一定の効果があるが、やはりテレビ、ラジオなどで中、西部などに会場が変わりオープンするごとにマスコミを利用することを考えることが必要か。一発花火は人々の話題から消えていく。
- ・審査員については今の東中西から順番に選ぶ方法は一見公平のようだが、「審査員としての実力が無い人が審査している」との声が聞かれる。あまりに審査員の枠を広げすぎたり、ある団体に推薦を依頼しそれを丸呑みにすることは避けたいように思われる。主催者が審査員を見る目を持つべきで、実際に点数をつける際に県外審査員との差がありすぎることがある。
- ・審査日時の公開は、PR、周知によって希望者がどれほど増えるかわからないが、現在の審査方法であれば、参観希望者が増えれば審査方法に支障が出ると思われる。事務局の対応が必要だ。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・県展賞は部門によって複数受賞しているが、やはり1点に絞るべきではないかとの意見もある。新人賞、奨励賞(努力賞の意味合いをこめて)を増やせばよい。県展賞の賞金額を増やし部門1点にし受賞の重みをつけるのも一つの方法だろう。
- ・県展は予算規模からいっても、舞台系のメイン事業と同じ位置づけである。今年度の委託の形態を、全体運営、作品展示、広報など細かく点検する必要がある。一部の応募者から「日通から入賞の案内が来たことに違和感を覚えた」との声があった。主催、委託運営など公募の段階から明確にして公表しなければならないのではないか。
- ・今年度の県立博物館の展示日数については疑問が多い。経緯はわからないが県民のための施設で、県民のための展示が例年通り日程確保できないということはどういうことか。理由は、県立博物館の事情によるものと推察されるが、鳥取市美術展とあわせ、県民、住民サービスの考え方を徹底し情報を公開して欲しい。県立博物館で前年並みの入場者を確保できなかったことがそれをはっきり示している。



第13回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2015 中部地区事業(中部地区企画運営委員会)

平成27年10月31日(土)・11月1日(日) 倉吉未来中心ほか

文化芸術事業評価シート(とリアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の 拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	「次世代育成」をテーマに、子どもが参加できる企画を積極的に実施し、親子・家族で楽しめるイベントにします。	概ね達成 親子・子ども向けのワークショップを多く取り入れたおかげで、当日は家族連れの姿が多く見られた。また、子どもが出演・参加する企画も積極的に実施した。	概ね達成 会場のあらゆる場所で家族連れの姿が多く、ワークショップ(以下WS)も親子で楽しめるものが多く裾野の拡大が図れていた。一方で、代わり映えせず、とリアート独特のものが今回も見受けられなかったのは残念。
		幅広い文化芸術分野の事業を実施し、より多くの方が参加しやすい事業とします。	概ね達成 幅広いジャンルのステージ企画、ものづくりから体験型まで様々な種類のワークショップ、全館を使用した絵画コンクールの展示を始めとする展示と、幅広いジャンルの事業を実施できた。 一方、前年度と比べ大きく代わり映えないラインナップとも言える内容であった。	達成 各種催事が雑然としていてまとまりに欠けていた前年に比べて、催しも観やすく周遊もしやすい=参加しやすい環境だった。前年は主催者視点での催しプログラムだったが今年度は鑑賞者の視点に立ったプログラムとなり、良かった。一方、リピーターが増える中で変化が求められる部分もある。裾野は広がられているので、今後は質の高い芸術活動の推進も目指してほしい。
	誰でも気軽に鑑賞できる、オープンスペースでの企画を充実させます。	達成 ステージ発表だけでなく、ワークショップ、展示等も行うなど、アトリウムというスペースを最大限に活用できた。絶え間なくステージイベントを行ったことや総合司会をつけたこと、会場を装飾したことなどで、気軽に鑑賞できる環境を提供できた。	達成 前年のアトリウム催事は、ステージ発表の音が大きすぎてWSの邪魔になると感じる時があったが、今年度は改善されており、催しがバランスよく行われていた。気軽に鑑賞できる雰囲気作りはできているので、次は文化芸術に長けている人が足を運んでみたいという企画を充実されるとよいのでは。	
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	周遊企画やフードコート等の実施など、来場者がより長く、より楽しく、より気軽に事業を満喫できるよう工夫します。	概ね達成 館内に設置されたクイズに回答すると抽選会に参加できる周遊企画を実施した。クイズの内容も、子どもでも分かる簡単なものにしたことで会場内を周遊する多くの家族連れの姿が見られた。また、今年はフードコートの店舗数を増やし、特に主食となるメニューを充実させたことで、館内で昼食をとれる工夫を行った。また、敷地内の飲食店との連携も行ったことで、1日中事業を満喫できる環境づくりに努めた。	概ね達成 館内を周遊できるクイズラリーはすでに中部地区事業の風物詩というか伝統的な良い取り組みといえるべきか、子どもが楽しみながら回っていた。 フードコートの店舗数は増え、メニューも主食からおやつまでと充実していたが、それに対して館内で飲食できる専用スペースが、まだまだ十分とはいえなかった。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	鑑賞だけでなく、来場者が実際に参加・体験できるよう、体験型ワークショップの充実にも努めます。	概ね達成 製作体験型のワークショップに加え、ベリーダンス体験、着物着付け体験等の参加者体験型のワークショップを実施し、来場者が体験できる機会を設けた。	概ね達成 体験できる催事を増やすことで、来場者の文化芸術への興味増進につながる。和紙灯り作りWSは大ホールでのコラボにつながるもので、その点をもっとPRした方が良かった。セミナールーム3(以下セミ3)WSは今後もっと構築されると子どもの育成にとっても良い。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	事業テーマ、コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。	概ね達成 テーマを「次世代育成」として、子ども・若者が出演する企画、親子向け企画を多数実施した。また、対象年齢に関わらず初心者向けの体験ワークショップを充実させたことで、「次世代＝若年層」の育成だけでなく、これまで文化芸術に触れる機会の少なかった層の育成も図った。	概ね達成 事業テーマが「次世代育成」と明確なのはよく、それに対する事業を充実させた点は評価できる。同時に「若年層以外の文化芸術に触れる機会の少ない層の育成」も目指すのであれば、その目標も別に掲げ、その催しをプランニングしてほしい。参加者の少ない20歳代に向けた企画を今後検討する必要もあるのでは。
		大ホール、小ホール、セミナールームなどの会場施設を活用し、大規模、中規模、小規模と様々な規模の企画を実施します。	概ね達成 大ホール、小ホール、アトリウム、セミナールーム、リハーサル室、屋外など館内全域を使用し、様々な規模の企画を実施した。今後、各施設間の連携も必要である。	達成 館内の各施設を有効に使用し、さまざまな事業展開がなされていたため、高揚感を継続したまま事業を楽しむことができる環境だった。
	県民ニーズの把握	昨年のアンケート結果、評価等を見直すことで、来場者の意見に応え、より良い事業になるよう努めます。	概ね達成 昨年度のアンケートにあった、ワークショップの料金が高いという指摘に対し、今年度は親子向けにおいて、無料で楽しめるものを増やした。また、食べる場所がもう少し欲しいという意見について、外にもテントを設置し、飲食可能なスペースを増やした。	概ね達成 屋外の飲食スペースだが、提供される飲食ブース(飲食店の数)に比べて、まだ物足りない印象を受けた。WS料金は考慮したとのことだが千円前後するようなものも多く、簡単には参加がたいと思われる。補助をつけて単価を下げることはできないか。または、高くても参加したくなる質の高いものを増やしていくべきでは。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	委員自らが実施または推薦する企画を多く取り入れ、高質な事業実施に努めます。	一部達成 大ホールで実施した「とりアート中部 Dream Concert」の他、小ホールを会場とした「青少年合唱フェスティバル」といったホールを活用した事業の他、アトリウムでの委員推薦団体によるパフォーマンス、セミナールーム3を活用した親子向けコーナー等を実施した。	概ね達成 大ホール事業は、前年に比べて質が高く、鑑賞者も多かった。(前年は客席にいる人の多くが出演前または出演後の出演者だった)。小ホールの合唱フェスも良い内容。琴浦の写真展示や、セミ3で同空間に多彩なWSがあったのも良かった。
		次世代を担う子どもたちや若年層の発表の場を提供します。	概ね達成 園児から小・中・高生までの若年層が出演・参加する企画を実施した。各団体が日頃の練習の成果や作品を思う存分発表する場を提供することができた。	達成 子どもや若者の出演する事業が多く設けられていた。とりアートで多くの人の前で発表した経験を日頃の活動に生かしてもらえとうれしい。この中から新たな企画を生み出していける担い手が出てくるのが目的となればなお良いと思う。
	地域や教育機関との連携により、後継者や担い手を育成します。	一部達成 地域の特産品や人材を活用した「じげアート」を実施した。他の行事との兼ね合いもあるが、教育機関と連携し、担い手となる子どもたちの参加を増やす必要がある。	一部達成 教育機関との連携は長年の課題。相手方の理解を得るのが難しい面もあるが引き続き努力してほしい。同時に良質なワークショップをデザインできる人材の必要性も感じる。	
鑑賞者の育成	誰もが気軽に文化芸術に触れる機会を提供して、文化活動者や鑑賞者の裾野の拡大を図ります。	概ね達成 多彩な50企画を実施して、次世代から年配の方まで気軽に文化芸術を楽しむ機会を提供した結果、延べ10,829名の方の来場があり、文化活動者や鑑賞者の裾野の拡大に繋げることができた。	一部達成 多彩な企画は良かった。ただ来場者の多くを占めた家族連れらは、文化芸術を鑑賞するというよりもWSなどのイベントを楽しんでいた。その中で文化芸術にも触れたわけだが、文化活動者や鑑賞者の裾野の拡大に直結したかといえば、まだ不十分といえよう。	

人材育成	鑑賞者の育成	新たな企画を取り入れることで、これまでとリアルアートに足を運んだことのない層の来場を狙います。	概ね達成 中部地区事業では初の開催となるベリーダンスショー&ワークショップ、地域の特産品、人材を活用したじげアート、空手演武等の新しい取組を行った。	達成 新企画は新たな層の来場者につながったろう。空手の演武はスポーツ系だが、演者がそろって披露する型は、「演」武というだけあって、ダンスのようでもあり、同じスポーツ系でいえば昨年のプロレスに比べて格段に良い取り組みだった。
	アートマネージャーの育成	広報、芸術、企画をそれぞれ担当するアートマネージャー3名を配置し、アートマネジメント人材の育成を図ります。また、アートマネージャーを主体とした委員会体制をつくることで、アートマネジメント力の更なる向上を狙います。	概ね達成 アートマネージャーを中心とした委員会運営及びプレイベント実施、当日運営を行うことが出来た。	概ね達成 アートマネージャーが主体的に取り組み、企画をリードしたことは良かった。一方で、主催である委員会が、アートマネージャー提案に対して、いくばくかの意見を述べるだけの追認機関にならないようには留意しなければならない。
	支援者の育成	幅広い分野に出演、参加、出店を呼びかけ、理解者を増やすとともに事業の充実により、幅広い世代の方を支援者へと導きます。	概ね達成 フードコートの出店者が過去最大となり、来場者が会場に足を運びやすい結果となった。 また、障がい者団体にも参加を呼びかけ、これまでにない出演者の拡がりをもたせた。	達成 新規の出店者、出演者が明らかに増えていた。ジャンルの幅も広く事業も充実していた。今回新たな支援者として参加された方々の育成を次年度も継続してほしい。
	総括		64.4%	75.6%

【成果】

- ・前年は会場が雑然とし、主催者側の視点で組まれたプログラムやレイアウトであったが、今年度は見違えるように改善され、来場者の視点に立った構成となっていた。この改善は、委員やアートマネージャー、事務局の努力が実を結んだ結果であろう。全体的にみて、前年に比べると格段に良かった。
- ・テーマとした次世代育成にちなんだ催しが多く、ワークショップも他の会場に比べてバラエティーに富み、ステージイベントも多彩で家族連れの出場者が目立った。CDを使ったコマづくりなど、簡単なWSがアトリウムの通常WSスペースとは異なる場所に配置してあったのは、子どもが気軽に楽しめる環境で良かった。同時に、広いセミ3に複数のWSを配し、同室を周遊して楽しめる環境も整えてあった。気軽に参加しやすく、裾野の拡大が図れていた。
- ・前年に比べて小ホールが有効に使われていた。和太鼓コネクションは太鼓ワークショップの指導を30代女性が務めており、笑顔での指導も素晴らしく「誰にでもできる」という印象を与えていた。出演者の演奏も良かった。合唱フェスも小ホールに見合った素晴らしい催しだった。
- ・大ホールのドリームコンサートは、前日のWSで来場者が作った和紙灯りを舞台に使用するなど、新たな視点でのコラボの取り組みがなされていた。

【課題】

- ・中部の安定した内容は満足できるものではあるが、変化に乏しいともいえる。裾野の拡大は図れている一方で、いくつかの質の高いイベントはあるが、頂点の伸張については全体的にまだ不十分な面があり、取り組んで欲しい。
- ・ワークショップは他の場所でもやれるものが多く、「このとリアルアートならではの」という独特のものに欠ける印象がある。また、価格設定の問題や来場者に女性が多いためか女性向けのものが多い点は参加者を限定するものとする。営業色の強いものなど、本当に子どもたちの体験学習につながるのか見極めも必要。いつもの団体による代わり映えのしないものづくり体験にはならないように気をつけてほしい。
- ・飲食出店者が増えた割合に対してみると、飲食できるスペースはそれほど増えていないようであった。食ブースの近くにもっと飲食スペースが広くあるほうが望ましい。
- ・大ホールの催し終了後、出てこられた大勢の観客が1階の階段下にとどまって通行の支障となっていた。特に正面玄関に出入りにくい状況であった。大ホール催事後は、1階のスタッフが観客を整理、誘導し、通路確保をする必要がある。
- ・会期初日の10月31日に大ホールを貸館で外部団体に貸し出していたミスがあり、大ホールのドリームコンサートがチラシとは異なる時間に開催されていた。施設管理課と事務局で情報共有をしっかりとしてほしい。たまたま外部に貸

し出した催しが文化芸術系のジャンルのものであったため、その来場者も、とりアートの催しをいくつか鑑賞したであろうことは不幸中の幸いだが、それは結果論。会期中の会場押さえは確実にしなければならない。

- ・園児や小中高生の参加という意味では、中部は毎年高い評価が得られると思うが、20歳代についても即戦力という意味で出演や参加を得られる方法や企画を考えてほしい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・さりげないがステップアートは無味な階段をあでやかにし、会場の空気醸成に大きな役割を果たしている。続けてほしい。
- ・なしこ館側の入口から入ると、最初にアトリウムで目に入るのがステージ裏であり、来場者はいきなり、待機している出演者などの「催しの裏側」を目にする。アトリウムのステージ裏にパーティションなどで、通行客から見えなくするための出演者の「たまり」(控えスペース)が必要と感じた。また、空手演武の出演者が舞台上がる前に、ステージ下手側に一直線に並び、通行の妨げにもなっていた。これもステージ裏の「たまり」から舞台下の端までぐるりと並ぶことで改善できる。
- ・ワークショップがパンフに記載してある時間より早く終わってしまっているものが結構あり、時間を持って余すことになってしまった。パンフに記載している以上そこまではやっていてほしい。材料等の関係でできなくなったのであれば、そのことを知らせる配慮がほしい。
- ・小ホール「愛と平和へのバラード」について、大勢の観客が訪れていた集客の努力は大変良く、シャンソンの質も高かった。一方で、三十六歌仙の寸劇、および朗読劇では、出演者の技量などの質に向上の余地があった。また、マイクの頭が固定されていなくて声が拾えなかったり、ピンマイクが原因なのか雑音が入り続けたり、帽子の影で出演者の顔が見えなかったりと、テクニカルな部分の質が低すぎて地区公民館発表会の域であり、興ざめしてしまうレベルだった。マイクや照明などは慣れない団体には分からない点も多いので、出演団体にまるっきりまかせるのではなく、それなりに主催者側でサポートする必要があるのではないかと。あれではお客様に失礼である。原則として出演者側が全て行うというルールがあり、それが曲げられないのなら、それらの団体はスタッフがマイクなどを段取りするアトリウムステージや、マイクなしでも声が聞こえるセミナールームなどで上演してもらうなどの理解を得る必要がある。また、同事業は受付で来場者に芳名帳(氏名・住所)を記入してもらっており、時間がかかることで無用な混雑を招いていた。これらも主催者のアドバイスで改善できるのではないかと。
- ・事業評価シートの提出が大幅に遅くなったのは、委員会が決裁後に提出したい、ということである程度理解はするが、本来は提出に間に合うように委員会を開催し、決裁してほしい。また、アンケート集計表の数字が違っており、再提出してもらった。以前はこのようなことはなかったもので、できないはずはない。事務系作業のチェックを行うなど改善を望む。なお、再提出のアンケート結果でも、「お住まい」のうち、県外が57人なのに対し、県外回答者合計は54人。これは県外と書いてあっても都道府県名までは「未記入」が3人あったということか？それならば「未記入」欄を設けるなど、数字が合うようにして資料をそろえてほしい。
- ・受付の対応が前年より改善されていた。
- ・のべ人数10,829人でパンフ配布枚数が1640枚ということは、平均的に1人当たり6~7事業を周遊したことになる。周遊事業が多いということは、それだけ魅力的な催しが多く、来場者が楽しんだということになる。今後もパンフレット配布枚数をカウントし、来場者1人当たりの周遊事業数の増加にも努めてほしい。
- ・アトリウムへの出入り口の多い会場であり、入っていく場所によっては分かりにくい総合受付の位置は、あの場所がベストなのだろうか。
- ・アートマネジャーを分割してしまうのには疑問を感じる。その下に専門分野として担当コーディネーターを配置して、アートマネジャーが何かを理解していく必要性を感じる。
- ・全館で同じレベルの展示、ワークショップを展開していたように感じた。もっとメリハリをつけて文化度の高い作品、一般受けのワークショップ、子どもの作品など、各部屋で区別をつけることを希望する。



第13回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2015 西部地区事業(西部地区企画運営委員会)

第1部 ステージパフォーマンスの部

平成27年11月21日(土) 日野町文化センター／ホール森の音楽隊

22日(日) 日野町役場前駐車場

第2部 展示・ワークショップの部

平成28年2月5日(金)～8日(月) 米子市美術館

3月4日(金)～7日(月) 日野町山村開発センター

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	西部地区内をさらに地域分けし、複数年に渡り地域を巡回し、地区全体での事業への参加機会を提供する。①	<p>概ね達成</p> <p>西部地区事業のコンセプト「いつものまちで文化する」を継承し「とりアート西部地区事業」を西部地域全体の事業として定着させ、文化芸術に触れあう機会を地域全体で創出するため、初年度として日野町で第1部ステージパフォーマンスの部、第2部展示・ワークショップの部、米子市で第2部展示・ワークショップの部をそれぞれ開催することができた。</p> <p>地域での開催にあたり集客力の面でリスクはあったが、第1部では地域のお祭りや協働し、第2部では地域行政に広報協力を仰ぐなどし、とりアートの周知及び芸術鑑賞(参加)機会の提供を図ることができ、文化芸術の裾野の拡大については大きな効果があったと考える。ただし、継続的に地域で実施できてこそと考えるため、「概ね達成」とした。</p>	<p>概ね達成</p> <p>開催場所を西部の中で巡回することで、西部地区に属する地域にとりアートを知っていただき、参加の機会が拡大したことは評価できる。</p> <p>日野町での第一部のステージパフォーマンスの部は地域の祭りと共催することで賑わいがあった。祭りを目的にしていた方にも事業を知っていただくいい機会になったのではないかと感じる。</p> <p>ワークショップについては優れた人材の確保も有り単なるものづくり的なものは精査されグレードアップしていると感じた。</p> <p>自己評価にもあるが、小項目の目標が複数年にわたり巡回とあるために、概ね達成とする。</p>
		各地域での連続複数年の実施により地域の特徴を掘り出し、地域ごとに特色を持った事業を企画し開催することで、地域間の文化に触れる機会を蓄積する。②	<p>一部達成</p> <p>初年度は、第1部ステージパフォーマンスの部、第2部展示・ワークショップの部<日野会場>ともに西部地域で活動する団体やアーティストのパフォーマンスや作品に触れる機会を提供できたと同時に地域行政や住民の方々とも交流することができた。</p> <p>また、第2部展示・ワークショップの部<米子会場>では、日野町を含む西部地域で活動するアーティストの作品に触れる機会を提供することができた。</p> <p>しかし、第1部ステージパフォーマンス<日野会場>については一部日野町のイメージを演出に取り入れるなどしたが、初年度は発表の場の提供および交流にとどまったため地域の特徴を掘り出したとは言い難い。地域との交流を継続し、事業内容にテーマ性を持たせるなど特色ある事業を目指す。</p>	<p>概ね達成</p> <p>自己評価では日野町で行ったステージパフォーマンスが特徴を掘り出しきれなかったとの評価をしているが、毎年実施場所を変えながら、その地域の特徴を掘り出すというのは容易ではないと思う。</p> <p>第1部では地域で活動する団体や高校生によるステージパフォーマンスが見られたが、地域の特徴を持った作品が多かったとは言えない。</p> <p>しかし、この地のイベントと同時に開催したことで、効果的な集客ができ、また参加した人は間接的に日野の文化の一端を感じることもあったのではないかと感じる。</p>
	プレワークショップや勉強会を通して、多様な立場・価値観を共有し、ノーマライゼーションを目指した企画を創作していく。(2年目以降)	—	—	

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	公募企画事業に対して、専門家を交えた事業の構築と、活動者の意識の向上を図る。③(2年目以降)	—	—
	県民ニーズの把握	①及び②を実施することで、ニーズの掘り起こしを行う。	一部達成 アンケート<日野会場>より、地域での更なる文化芸術の鑑賞機会提供の要望が見て取れた、また地域住民の方や行政の方との交流の中で、高齢者の割合も多く福祉的要素や町おこし的な要素への期待も伺えた。 各地域での開催にあたり、次年度以降も継続的な課題としてニーズの掘り起こしを行いながら事業を展開していきたいと考える。	一部達成 地域での開催となると、来場者は高齢者が多くなりニーズにも偏りが生じることが推測される。高齢者なども含め福祉や町おこしとしてのお祭りの要素のアート、また若年層へ向けたきっかけ作りとしての参加型アート、自らアーティストチック面を向上させるための吸収型アートなど住み分けを考えるなど今後期待したい。
	良質な作品の提供	県内で活躍するアーティストを招聘し、全国へと発信できるような作品の制作に取り組む。	達成 第2部展示・ワークショップの部<米子・日野会場>では、ココでアート展と称し、大下志穂(体験型作品鑑賞ツアー)、happy unbirthday(パフォーマンス・インスタレーション作品)の二組を招聘し作品を制作した。 それぞれのアーティストの作品制作への取り組みの姿勢は、委員会としても刺激を受けるものであった。 また、参加者が体感する作品として新しい価値観に触れる機会を提供できたと同時に、良質な作品であり、いずれの作品も今後広がり期待できる作品を制作することができた。参加したアーティストにとっても、さらに質を高める良い機会になったと考える。	達成 大下志穂さんと happy unbirthday さんらの力量もあり、良質な作品が提供できたことで子どもたちや地域住民にも大いに刺激になったと思われる。しかし一般の人の間ではインスタレーション自体の認知度も高くないと思われる。この作品を面白いと思え入れ自らも参加してみたいと思う人を育てるには、間にもう一段階わかりやすいものを取り入れるといろいろな価値観の人に足を運んでもらえるものになったのではないかと。
		③に同じ	—	—
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	一線で活躍する活動者を講師とした、ワークショップ・勉強会を開催し、スキルアップの機会を事業に組み込むことで育成を促す。	一部達成 第2部展示・ワークショップの部<日野会場>では、日野町の住民の方々へインスタレーション・パフォーマンスの素材である「靴下」の回収を呼びかけ、作品への素材提供をとおして地域住民の方が文化芸術に気軽に参加し、地域との交流を持ちながら作品制作を行うワークショップを実施した。 ワークショップ参加者は日野町を中心に公募をかけ、happy unbirthday と複数回開催のワークショップにてインスタレーションとパフォーマンスの制作を行い、イベント当日はパフォーマーとして作品に参加した。 活動者の育成までは至っていないが、アーティストと協働し作品制作を行うことで、一部であるがスキルアップへの機会を提供できたと考える。	一部達成 ワークショップが日程や人数制限、場所など、気軽に参加できるような形態でなかったために、一部の人に限定されるということになってしまった。しかしこのように狭く深くといったやり方により、活動者と参加者が密接なかかわりを持つことができ、より高いレベルの制作が体験でき、満足度も高いと思われる。これに比べ多くの人を対象としたものでは、様々な人たちのレベルに合わせるためにある程度レベルを下げることもあり、その分達成感も低く、満足度も下がることが考えられる。どちらのやり方が良いとはいいがたいが、両方あるといいのではないかと。 インスタレーションのための初回のワークショップは参加者が少なく残念だったがたくさんの靴下の回収があり、地域住民の作品制作参加の目的は達成しているが、その先のパフォーマンスまで多くの方に興味を持ってもらえたのかは少し気がかり制作の協力、パフォーマーとして参加して下さる方が今後増えていくことを期待したい。

人材育成	鑑賞者の育成	鑑賞のみならず、制作の現場も体験することで、多角的な視野を持った鑑賞の育成を行う。	概ね達成 第2部展示・ワークショップの部<米子会場>の開催では、公募によりボランティアスタッフとして、大下志穂、happy unbirthday の二組のアーティストの制作(作品展示補助など)の現場を体験できる機会を提供することができた。 ただし、アーティストの協力により実施できたと考えられるため、企画としての実施と運営についての課題も見つかった。	概ね達成 アーティストの制作現場の体験をできたことは、参加者にとって大変貴重な機会になったと思われる。あのようなパフォーマンスにボランティアスタッフとして参加してくださる方はもともと意識の高い方と考えられるので、その方たちは大いに楽しめたのではないかと感じるが、鑑賞者の育成とするならば、企画段階での地域との兼ね合いなども考慮する必要性を感じた。
	アートマネージャーの育成	地区全体で、広く地域の住民の参加を促す機会を提供し、全体を俯瞰できる視野を持った人材を育成する。	一部達成 happy unbirthday 参加型のワークショップは実施できたが、アートマネージャー育成としての取り組みには至らなかった。	一部達成 複数地域の住民へ参加を促す機会の提供はできていたよう。アートマネージャーの育成には長い時間と関わる方々の共通認識も必要と感じる。
		事業内での役割を明確にし、各分野をとりまとめることの出来る人材を育成する。	概ね達成 委員会内で、サブアートマネージャー、各広報、企画(ステージ・展示・ワークショップ)等のコーディネーターの設置により、役割分担が明確化出来るようになり、運営体制も活発化してきている。 また、アートマネージャーと協働で事業運営を行うことで次期アートマネージャーの育成がなされている。 ただし、一部担当者への負担が大きくなるなど課題も残るため、次年度以降の運営体制の検討が必要と考える。	概ね達成 今回はステージと展示を分けたり、ワークショップも含め複数の地域での開催をしたり、地域のイベントと共催するなど、様々なことをやりながらそれらを実施できたということは、運営者がそれぞれの役割をしっかりと果たすことができていたからだと考えられる。次期アートマネージャーの育成のために、現アートマネージャーと共同で事業運営を行うことを継続し、今後もアートマネージャーの育成を期待する。
	技術者の育成	舞台・展示・ワークショップ等部門分けを行い、各分野でのディレクター的役割の人材を育成する。 なお、育成のための勉強会などを実施する。	概ね達成 部門ごとにコーディネーターを配置することができ、各企画実施に係る調整、当日運営など円滑な運営を行うことができた。 また、コーディネーターのそれぞれの発想で質の高い作品を提示することができた。 今年度実施できなかった勉強会などを今後実施し、委員会内での協力態勢を整え、更なる人材の育成を試みたいと考える。	概ね達成 各部門にコーディネーターを設置することで、他の委員も運営をやりやすくなったのではないかと。部門ごとのスタッフの動きはよかった。今後は勉強会など活発な交流を期待したい。
	支援者の育成	事業への一般参加の機会を提供し、協働する喜びから、サポーターとなる人材を育成する。	一部達成 公募による第2部展示・ワークショップ<米子会場>での、制作現場の体験によるボランティアスタッフ募集、<日野会場>での、happy unbirthday によるワークショップ(協働での作品制作)への参加により少なからず事業への理解を得られたのではないかと考える。 しかし、参加者が少なかったこともあり、引き続き一般参加の機会の提供を行っていきたいと考える。	一部達成 ワークショップへの参加機会の提供は、ある程度の制限が伴っていたため参加者数が少なくなってしまった。参加者を増やすことによって、質を下げるといったような安易なやり方はしてほしくないが、何らかの工夫も必要かと思われる。
	育成した人材を活用する場の提供	地区内事業から、単独で事業を興す機会へと繋がる取り組みを行う。	未達成 単独で事業を興す機会へと繋がる取り組みはできなかった。	未達成 単独で事業を興すといっても資金面など簡単なことではないので、目標設定が少し高いかもしれない。長い目で育てていくことが肝要。
	総括		48. 5%	51. 5%

【成果】

- ・西部地域を巡回することで多くの人に参加の機会を提供できた。今後も継続を期待する。
- ・ステージと展示を分けて開催することで、お互いのレベルの向上につながった。
- ・展示では作品の制作者による解説を積極的に行っており、より深く作品の理解ができた。
- ・ワークショップでは参加者に高いレベルのものを提供することができ定着しつつある。
- ・地域のイベントと共催することでお互いのイベントにとって相乗効果が得られた。

【課題】

- ・それぞれが単独で開催することで、日程や開催場所などが煩雑になり、とりアートとしてのイベント全体がつかみにくくなってしまった面があるのでは。
- ・ワークショップは高い質が提供できたことと引き換えに、制限を設けたことで参加の機会が減少することにもつながってしまった。
- ・第1部の日野会場では駐車場がどこも満車状態で、遠方から来た者にとっては不案内なものとなった。
- ・住民ニーズに合わせた取り組みができるように偏った方向に向かないようリサーチが必要。
- ・開催地域を限定したためか、出演者のレベルが気になった。参加者を慎重に選考しても良いのではないか。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・ステージと展示を分けたり、異なる地域で開催したりと、西部のとりアートは毎年新しい試みをしており、それぞれ賛否はあるかと思うが、こういった姿勢は素直に評価したい。ただ今年はそれぞれの部門が様々な地域でさまざまな日程で行われたことで、少しイベントの全体が見えにくくなったと感じた。イベント全体の日程や部門の構成などがわかるようなポスターやチラシなどをはじめに提示するなど、より分かりやすくする工夫がほしい。東部や中部はほぼ固定の場所で行われており、集客面や交通の面など多くの利点がありこれを否定する気はないが、西部のようなやり方も参考にしてみてもいいのではないか。
- ・今後も様々な地域で開催するのであれば、地域イベントとの共催という形は効果的であろう。演じる側とすれば鑑賞者の増加がモチベーションの向上にもつながるものといえよう。ただこの場合とりアートの存在感を示せるように調和を求める手法が必要と考える。
- ・質を求めるばかりに特殊な方向性に向かないように意識が必要ではと感じた。お祭り騒ぎと、少し飛びぬけたパフォーマンス、住み分けができているとは言えお客様に一番多いであろうところの中庸な部分が若干抜けているような感じがした。



第13回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2015 東部地区事業(東部地区企画運営委員会)

平成27年12月12日(土)・13日(日) とりぎん文化会館ほか

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	幅広いジャンルの文化芸術の鑑賞・体験の機会を提供することで、すそ野の拡大を図ります。	<p>概ね達成</p> <p>【成果】現代アートから伝統芸能まで、幅広いジャンルのアートを提供することができた。特にステージイベントにおいては、新しい企画(フラッシュモブや絵画鑑賞など)が多く見受けられた。</p> <p>【課題】ステージイベントと比較すると、ワークショップ企画においては新陳代謝が必要。</p>	<p>概ね達成</p> <p>ステージイベントにおいては新しい企画も多く見られ幅広い年齢層の動員につながっていたが、観客数のばらつきがあり残念であった。</p> <p>ワークショップの質、量ともに今後の企画の練り直しが必要な時期に来ている。</p>
		特に自主企画では、子どもや親子が楽しめる企画を実施し、すそ野の拡大を図ります。	<p>概ね達成</p> <p>【成果】自主企画では、子どもに人気の保育士バンドやアイドル体験、ダンボールでのロボットづくりなど、子どもや親子で楽しめる企画を実施することができた。</p> <p>【課題】総合芸術という観点で、子どもや親子が楽しむことができる企画の難しさを感じた。特にステージイベントにおいては、実施者のアイデアや努力もみられたが、実施者の関係者だけの参加にとどまってしまうは、もったいないと感じる場面も多々あった。また、もう少し子ども向けイベントを実施できたのではないかと感じる。</p>	<p>概ね達成</p> <p>子どもの自由な発想を引き出すダンボールロボット、親子で楽しめるアイドル体験など子ども向けの企画は見えて楽しいものがあり参加者の増加、満足度も感じられた。飛び入りの参加を期待するまでにはまだ鑑賞者の育成に至っていないように感じる。関係者の輪を広げることが重要。</p> <p>ものづくり体験のワークショップが少なく感じられたが、子ども向けの企画は単純にものを作るという体験ではなくしっかりねられた企画にすることが重要と思われる。</p>
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	事業全般をワンフロアに集約することで、来場者が多様なアートに触れられる環境を整えます。	<p>概ね達成</p> <p>【成果】ほぼ全てのイベントをワンフロア(1階)に集約しながら、レイアウトを工夫し、ゆったりと楽しんでいただく環境をつくることができた。</p> <p>【課題】フリースペースのレイアウトは、昨年の反省から各ブースの配置を整え、来場者用通路を確保したりしたが、かえって整然とし過ぎ、人の少ない時間帯は閑散とした雰囲気になってしまった。また、2階で開催された企画(1企画)への導線も不十分であった。</p>	<p>概ね達成</p> <p>1階のレイアウトは昨年に比べ確実に向上していた。メインステージに誘導しやすい良い空間を作り出し、食ブースも充実し利用しやすく設営されていた。しかし階段スペースをステージに使ったことにより2階への誘導が難しくせつかくの面白い企画が孤立していたのが残念だった。</p> <p>またパンフレットの案内図がわかりにくくメインステージ、フリースペースの見方にしばらく戸惑った。</p>
			ワークショップはもちろんのこと、ステージイベントにおいても来場者参加型の工夫を施すことで、気軽にアートに触れる機会の提供を図ります。	<p>概ね達成</p> <p>【成果】公募ステージ企画においても、企画の途中で観客の参加を促す場面が多々あり、こちらの趣旨・意図を汲んでいただくことができた。</p> <p>【課題】こちらの趣旨・意図を汲んでいた企画も多々あったが、県民性なのか、最初の一步を踏み出しにくそうにしていたお客さんもいらしたので、参加しやすい雰囲気づくりに課題を残すものもあった。</p>

裾野の拡大	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	紙媒体、SNS、マスコミなど、多様な媒体を活用した広報を行い、情報の発信に努めます。	概ね達成 【成果】 これまで実施してきた新聞折込によるチラシの東部地区全戸配布に加え、コミュニティーFMでのリピート告知・購読率の高いフリーペーパーへの広告出稿(2ヶ月連続)、ツイッターによる情報の拡散企画など、新しい方法にも取り組んだ。 【課題】 多様な広報媒体をより有効活用するためにも、目玉企画や新しい挑戦など、イベントの中身の充実も同時に進めていかなければならない。	概ね達成 それぞれ年齢層にあった告知方法、また居住地域隔々に行き渡るような広報は何か一番とは言い切れない。若者には SNS での拡散、年配者には紙媒体が重要で他地域に行き届かせるにはマスコミ利用も手段の一つ。しかし何よりも参加者のクチコミと情熱で参加者の輪を拡大することが重要。外部企業等の協力を考慮に入れても良いかもしれない。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	<p>分かりやすい事業コンセプトを設け、統一感のある事業を目指します。</p> <p>昨年度事業の課題点を改善し、事業の質の向上に努めます。</p>	概ね達成 【成果】 「気づく、育む、交わる」のコンセプトは分かりやすく、実施者(参加者)も個々の企画がコンセプトに沿うように努力していただいた。 【課題】 継続して参加している公募企画団体の中には、コンセプトに沿う努力をする団体がある一方で、マンネリ化から脱却できない団体も多々ある。 概ね達成 【成果】 ステージイベントは、発表会的なものは少なくなり、観客を意識し一緒に楽しめるものへとレベルアップしつつある。 【課題】 事業の改善は一步ずつであるが確実になされている。しかしながら、昨年度と今年度のフリースペースの賑わいを比較して感じたのは、イベントの実施時期や天候によって集客数が左右されるのは残念だということである。コンパクトが良いのか、雑多が良いのか、実施時期を含めてもっと話し合った方が良かったかも知れない。	概ね達成 わかりやすいコンセプトではあったが、理解できていない企画も見受けられた。参加者には企画意図がコンセプトに沿っているかを認識していただくような度々の確認が必要。同時に常連の参加者には次の段階にブラッシュアップしてもらうよう指導も必要。 概ね達成 ステージイベントは徐々にレベルアップしている。小ホールイベントより質の高いものも見受けられた。しかし来場者のバラつきが気になる。出演者自身、シーズンや天候に左右されないように企画に責任を持ち PR する努力も必要。またこのような時期ならなおさら季節感のある雪やクリスマスのイメージも欲しかった。
裾野の拡大	県民ニーズの把握	次年度以降の事業改善・レベルアップに繋げるため、来場者アンケート回収率を高める工夫を行います。	概ね達成 【成果】 アンケートの記入の仕方を〇付式チェックボックス式に変えたことで未回答や回答もれが少なくなった。また、障がい者の方が作られた米っ粉クッキーの配布や文字の大きさなどの工夫も施した。 【課題】 アンケート回答者へのお菓子のプレゼントを行ったが、それを目当てに適当な回答をする人も少なくなかった。アンケートを取る本来の目的を再度考える必要がある。	一部達成 アンケートを取る意味の一考も必要だが、プレゼントで回収率を上げるのも良い方法である。しかし有効なアンケートの回収率が低いのは度々の声かけ、せつかくステージごとの MC がいるのであればステージ終わりの声掛けがもっとあっても良かったと思う。
裾野の拡大	良質な作品の提供	自主企画においては、親しみやすさとともに一定以上のレベルを保った企画を実施します。	概ね達成 【成果】 小ホールイベントは県内ではレベルの高いバロックや軽音楽の演奏、また舞踏系も県内コンテストで賞に輝く団体などの出演で行った『LIVE Cafe』が好評であった。 【課題】 子どもが出演するイベントは集客力はあるが、ややもすれば発表会的な雰囲気になってしまう。特に有料イベントにおいては今後検討が必要である。	一部達成 一部の出演者に対しては有料に値するものがあつたが、観客の評価も客層を見ると身内びいきの結果によるものと感じる。調整が取れなかったからという安直な選択は鑑賞者の質を落としていくことにもつながるように思われる。自主企画さらに有料ならば、出演者の選択にもっと時間と企画者自体の選ぶ目をブラッシュアップしていただきたい。

頂点の伸張	良質な作品の提供	公募企画においても、実施者と事業趣旨・目的等を共有することで意識を高め、質の向上に繋がります。	<p>概ね達成 【成果】事業コンセプトが分かりやすく、参加者もそれに沿った内容を意識したものが多く見られた。ステージは、発表会的なものではなく、観客を意識し一緒に楽しめるものへとレベルアップしていると思う。 【課題】早い段階での趣旨・目的共通により、コンセプトに沿った公募イベントができたようにおもうが、毎年参加している団体のマンネリ化・質の向上という点がマイナス。質と顔ぶれの転換期に来ている。</p>	<p>概ね達成 公募企画の中にも新鮮な企画、優れた企画もあるが、反面毎年同じような企画参加もある。回を重ねているところには実施者自身がブラッシュアップできるような取り組みをして自主企画に持っているような質の向上の応援が望まれる。</p>
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	地域や教育機関と連携し、地域文化の継承に取り組むことも達を取り上げた企画を実施することで、次世代の育成を目指します。	<p>概ね達成 【成果】「傘踊り」「麒麟獅子」といった東部では馴染みの企画ではあったが、初めてとリアートに出演する子どもたちであり、新鮮さがあった。また、公募企画においては、現役の学校の美術の先生による企画もあった。また、出演者ではないが、スタッフとして2校の高校生ボランティアの協力も得られた。 【課題】子どもの団体出演をオファーする段階で、イベントの大きさに尻込みをしてしまう団体や時期をずらしたことによる影響(部員が引退など)があり、選定が難航した。より参加しやすい環境を委員会として整える必要がある。</p>	<p>達成 伝統芸能の継承、高校生の出演、ボランティア参加協力は今後も期待したい。児童生徒の参加に加え教員の参加は賞賛に値する。20代の参加が少ないのは今後の課題と言える。実施時期によってはもっと多くの参加が望めたかもしれないのは残念。</p>
	鑑賞者の育成	公募企画においては、できるだけ採用枠を増やすことで、事業が活動者の実践の場となることを目指します。	<p>概ね達成 【成果】ステージイベントにおいては、多少スケジュールが窮屈になった時間帯もあったが、2日間の会期で可能な出演枠を最大限に活用することができた。 【課題】採用枠を可能な限り増やすことは良いが、マンネリ化は改善していかなくてはならない。来場者への周知や定着のために活動によっては、同じ内容を2~3年続けることも必要であるが、同じ実施者が継続して事業を行う場合は、内容のリニューアルを採用の条件にすることも求めても良いかもしれない。</p>	<p>概ね達成 採用枠を増やしたことで参加者の発表の場が増えたのは良いが、団体の質の違いなのか自分の時間枠をうまく使うことなど指導が必要な団体もあった。タイムスケジュールに関しては他団体と一緒に作っているという意識を持たないと不満の声も上がってくる。多岐にわたるステージイベントは自由で参加しやすいが時折フリースペースが寂しくなるのが残念だった。</p>
	鑑賞者の育成	鑑賞者の育成を図るために、性別・年齢・障がいの有無を問わず、誰もが気軽にアートに親しむことのできる企画を数多く実施します。	<p>概ね達成 【成果】年齢性別はもとより、特に障がい者の団体との連携は深くなりつつある。演奏・作品レベルや楽しみ方も徐々に右上がりで、皆さんの努力が伺えるものが多かった。 【課題】とりぎん文化会館でのイベントは、「買い物ついでに寄ってみようか。」という軽い感覚では来場してもらえない。一般の県民にとりアート目的で来場してもらえようとするためには、今まで以上に魅力あるイベントと周知のための広報活動が必要不可欠。また、障がい者アートステージについては、出演団体の偏りにも注意しなければならない。</p>	<p>概ね達成 障がい者団体との連携は重要かつ配慮が必要。これからも良好な継続を期待したい。 とリアートとは知らずに来場している人も見受けられ、出演者の自覚も促すことによって鑑賞者も育っていくと思われる。だれもが気軽にだけを追い続けると地域の催しどまりにならないかと危惧する面もあるが各企画で年齢を問わず楽しむ姿を見ることができた。</p>

人材育成	支援者の育成	文化活動者以外の方が事業へ関わるきっかけを作り、事業支援の輪を拡げるよう努めます。	一部達成 【成果】 昨年に続いて協力いただいたダンボール業者、さらに話題のすなば珈琲によるカフェの出店、そして食ブースでも初めての店舗もあり、徐々にではあるが異業種からの関わりも広がっている。しかし、それが事業支援にまで繋がっているかどうかは不明確である。 【課題】 今回はボランティアとして高校生に多数協力いただいたが、活動の様子を見て、サポーターの育成には高校生が適任だと感じた。広く呼びかけてボランティアとして参加してもらったり、チャンスがあれば事業に関わってもらったりすることで、まずはとりアートを知ってもらえるのではないだろうか。	一部達成 イベント集客には欠かせない食ブース。売上を気にすることなく参加して下さる業者さんがあることは既に事業支援につながっていると思われる。ボランティアの扱いには実行委員会の共通認識を持って大学生にも呼び掛けて、高校生のボランティアとともに今後も継続しとりアートを広めて行くきっかけになることを期待する。
		総括	64.3%	61.9%

【成果】

- ・昨年まして、優れたワークショップや会場レイアウト、ステージイベントが見られた。
- ・毎年の工夫が有り、少しずつ変化発展が見られる。
- ・駐車場からのアプローチの鳥大生の作品展示、「いらっしやいませ、楽しんでください」の声かけそれだけでも成功のカギと感じた。
- ・日頃の練習や作品展示の場として重要なものである。
- ・若者の参加が目立ち、世代間交流、伝統文化継承などの点においては有意義。

【課題】

- ・中部に比べ参加者が少ない点は気になる。広報の仕方、参加者の意識、内容など要因はわからないが観客数の増加は出演者、参加者の意欲を高めこれが質の向上にもつながる。
- ・観客数増員対策のさらなる努力を望む。
- ・広報活動に力を入れて欲しい。
- ・小ホール有料イベントについては毎年どういう基準なのか理解ができない。出演者の選定には考慮が必要だと思う。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・オープンスペースでのステージの復活を望む声もあり、参加型のステージと演出を必要とするものとの住み分けが必要ではないかと感じる。
- ・現在のメインステージは気軽さという点では良いが出演者も観客も集中できず中途半端になっているように感じる。
- ・イオンでのプレイベントはプレと呼ぶには一団体の出演時間が長すぎる。簡単な紹介にとどめ多くの団体参加が望ましかった。
- ・プレイベントと当日の日にちが離れすぎていて残念だったが、成長が見られるものもあった。
- ・とりアートをアピールできる横断幕などがあればもっと良かった。
- ・「Live cafe」の「個性豊かな出演者」という企画は一定レベルを保ったと銘打っているがあまりにもジャンルがバラバラなのが疑問。観客にその結果が出ている。目当てのアーティストが終わるとさっといなくなる、の繰り返し。落ち着いて鑑賞するにはジャンル別を望む。入場料も少し高いのでは。
- ・普段触れることのないジャンルのステージが多く来場者が少なく感じたのが残念。
- ・観客としては純粋に楽しかった。
- ・公募企画のステージイベントには質の高いものもあり、そのブラッシュアップに期待がもたれる。



第13回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2015メイン事業

オペラ公演「魔笛」(とりアートオペラ公演実行委員会)

平成27年11月15日(日) 倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	芸術的レベルを担保しつつ、子どもから大人まで楽しめる作品を上演することにより、観客の満足度を高め、幅広い年代への裾野の拡大を図ります。	達成 満足度が91%という驚異的な数値が達成できたのには、作品の良さもさることながら、芸術性の高い公演に子どもたちが出演し、また、地域の芸能(神楽のオロチく大蛇く)を取り入れるなど、演出の方向性が理解されたからと思います。	達成 オロチが出てきたのは親しみ感を驚かした効果があると思います。会場がどよめいたのはその表れだったと感じました。子どもたちの参加も地方ならではの楽しみです。芸術性を高めつつ、観客の裾野を広げる取り組みは成功したと思います。演出に「今年話題、郷土芸能」等を取り入れるとありましたが、実に斬新でした。
		オーディションを実施することにより、隠れた人材を発掘し、活動のチャンスを提供します。	達成 公演一年前にオーディションを実施し、優れた人材が確保できたことが良い結果をもたらしました。	達成 まさに隠れたかつ優れた人材の発掘が功を奏していました。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	本公演を実施するにあたって、啓発的な行事として、コンサート形式による「魔笛ガラコンサート」を開催し、新しい聴衆の開拓に努め、更に公演前日のゲネプロを「親と小中学生」を対象に公開し、子どもたちにオペラ芸術に遭遇させます。	達成 公演半年前に、ガラコンサートを設定することで、ソリスト・オーケストラの練習期間が大幅に増え、スキルアップが図れました。また、ガラコンサートの音楽的な仕上がりも良く、本公演を期待してのチケット購入が5月段階からありました。ゲネプロの公開は好評であり、初めての、親子によるオペラ体験が、今後の鑑賞意欲の醸成に役だったと思います。	達成 ガラコンサートは初心者にも楽しく、しかも本番を見たいという欲求を導き出すには効果が大きかったと思います。また、出演者のスキルアップにもつながったと思います。また、初めての親子によるオペラ体験も啓発的な行事として重要な役目を果たしています。突然本番を県民に見てもらおうというより、こうしたきめの細かい下準備が今後共必要だと感じました。ところで、ゲネプロの公開は参加者が少なかった点の今後の対策を語って欲しかったです。
		出演者、スタッフのウェブサイトを活用して、口コミ効果を創りだし、オペラ体験の無い県民にその素晴らしさを発信します。そして、観客動員増に努めます。	概ね達成 オペラ公演への来場要因で一番多かったのが、「家族・友人・知人からお誘い」であり、全体の43%もありました。とくに、ソリストのウェブサイトからの発信が、多くの動員を可能にしました。	概ね達成 地方特有のクチコミ集客の強さは、今後共利用すべき観客動員の策だと思います。今後さらに拡大するウェブの利用は必須です。あとはバランスのとれた宣伝で、ポスターやチラシ、通常の宣伝をもれなくする事が大切かと思いました。ただ、2階席の空席にはそれらのパワーが届かなかった要因があるはずで、課題として取り組んでください。
		障がい者を想定したプログラム制作や鑑賞席の設置、更に託児所等の設置を行い、オペラ鑑賞の利便性を高めます。	達成 視覚障がい者のためのプログラムを作成しました。また、託児所を「よりん彩」の協力で親子室を借用して設置し、子連れの観客より感謝されました。	達成 今後共、こういった配慮のあるコンサートが必要になると思います。鑑賞席の設置はごく自然に他の観客にも溶け込んでいたかと思っています。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	<p>県文連の舞台分野の5団体(鳥取オペラ協会、鳥取県合唱連盟、鳥取県オーケストラ連盟、鳥取県洋舞連盟、鳥取県ピアノ指導者協会)が連携して、総合芸術の粋であるオペラ公演を実施します。</p>	<p>達成 鳥取オペラ協会からは、すべてのソリストが参加し、鳥取県合唱連盟は、いくつかの合唱団メンバーが参加しました。鳥取県洋舞連盟からは、ジャズダンス・クラシックバレエのグループから参加し、鳥取県ピアノ指導者協会からは、練習ピアニストのチームを組んで参加しました。鳥取県オーケストラ連盟は、各地の加盟団体の中より有志が参加して頂きました。</p>	<p>達成 まさに総合芸術の名にふさわしい布陣でした。今後共互いに協力し、成果を生む文化活動を期待します。今回のオペラ公演は価値ある活動だったと思います。ただ、各ジャンルのグレードの開きを縮めることと、取り組みに対しての各団体の温度差を縮小していくことが課題だと思いました。</p>
		<p>オーディションを行うことで、必要なスキルを持ったソリストを選択し、更に次世代を担う若者を、アンダーキャストとし、スキルの向上を図ります。</p>	<p>達成 ベストなソリストが選択できました。合唱団のオーディションで、将来を担うであろう人材を見つけ出し、アンダーに起用しました。若い方たちの意欲と努力により、信じられないスピードでスキルアップが実現しました。</p>	<p>達成 オーディションの成果は、鑑賞している者にとって感じるどころが多々ありました。人口が少ない鳥取県ですが、可能性を持つ人材は多いと、自信にもなりました。今後共、若い人たちの意欲と努力を信じていきたいです。次の課題は、アンダーが1人でも多くソリストに成長できる土壌を維持することだと思っています。</p>
		<p>とりアート事業でしかできない、地元演奏家のスキルアップを図るため、中央で活躍する指導者(指揮者、演出家、ディクション、コレペティ等)を招聘し、厳しいレッスンを体験することで、質的向上に努めます。</p>	<p>達成 今回の公演は、オペラ界で世界標準になっている「原語上演」を目指し、国内オペラ界でディクションの重鎮である発音指導者の指導を仰いだことが、大きな成果を挙げました。オーソドックスなモーツァルト演出で定評の演出家のレッスンは、時に厳しく確実な指導で成果を挙げました。</p>	<p>達成 とりアート事業の目指すところは文化芸術の質の向上と、誰もが親しむことができる県民参加型の文化事業だと思います。大いに一流の指導者から学ぶべきです。その機会を実現できたのは成功だったと思います。世界から地方への芸術の浸透を実感しました。継続は力なりを信じて、挑戦し続けて欲しいものです。</p>
県民ニーズの把握	<p>観客アンケートの回収率を高め、ニーズの把握に努めます。</p>	<p>一部達成 アンケートの回収率は14%に留まりましたが、目標に掲げた20%を勘案すると、ある程度、顧客の意向はくみ取れると思います。</p>	<p>未達成 観客のニーズを把握するためには、アンケートは少なくとも30%以上の回収が望ましく、かつ目標に掲げた20%を達成できていないのでこの評価とします。 アンケートを回収されるスタッフの叫び声を快く聞いていました。ただ、アンケートを書く時は、途中休憩時かな？退場時にはなかなか難しいと思います。しかし、必要です。工夫を期待します。観客満足度は最後の鳴り止まない拍手で、充分わかりました。ただ、県民の能動的なアンケートを「書きたい」「感動を伝えたい」といったところまで高める必要があると思います。受身の感動から、能動的な感動・満足へのメタモルフォーゼこそが、とりアートの本質と信じるからです。</p>	

<p>頂点の伸張</p>	<p>良質な作品の提供</p>	<p>オペラ「魔笛」に以前取り組んだことのある地元の演奏家が、プロの指揮者・演出家・舞台スタッフと共に再度取り組むことによって、よりレベルアップした公演を行います。</p>	<p>達成 評価の定まった作品を取り上げる以上、その再現力の高さが問題になります。今回の上演スキルは、国内オペラ団のスタンダードな演奏であると専門家(プラバホール芸術監督)より評価され、又アンケート上でも、他の「魔笛」公演より面白くて、分かり易く、素晴らしかったと評されました。</p>	<p>達成 面白さと、分かり易さはレベルアップがなされた証だと思います。また、近い将来に「魔笛」を再現して欲しいと思います。とりアート版魔笛を確立するのも県民の誇りになっていくと思います。歌は語るように歌う。語りは歌うように語ると言いますが、オペラはまさにそれですね。鳥取県オペラ協会の会員が中心となり今回の専門家から受けた訓練の成果を遺憾無く発揮して欲しいです。</p>
<p>人材育成</p>	<p>活動者(指導者、後継者、担い手)の育成</p>	<p>今回、舞台監督補助として鳥取大学の学生を起用し、体験をし、今後の活動に生かせるようにします。</p>	<p>一部達成 舞台監督の補助と言っても、かなりの知識とスキルが必要であり、途中で挫折した方もありましたが、お一人は最後まで務めることが出来ました。</p>	<p>評価せず 実地検証ができておらず、「評価せず」とします。 新しい事への挑戦はリスクを孕んでいます。それができるのも、とりアート事業の面白いところです。最後までやり抜いた学生の成長を期待しつつ、次回の参加を呼びかけて欲しいです。</p>
		<p>副指揮者に、県内の若手指揮者を起用し、専門的なスキルアップをはかり、今後県内での活躍の場で生かせるようにします。</p>	<p>一部達成 副指揮者は最も重要なポジションであり、指揮者と同等のスキルが必要です。しかし、指揮者の指導する練習会には参加していただかず、演出家による立ち稽古時に音楽的な齟齬が多々見られたのは残念でした。</p>	<p>評価せず 実地検証ができておらず、「評価せず」とします。 人によっては成長の速度に幅があります。いい意味での経験になったと思います。今回の試みは次回も続けて欲しいです。とりアート事業です。人を育てるのもこの事業の一環です。</p>
		<p>舞踏シーンに、子どもたちを起用することによって、オペラ舞台を体験していただきます。また、地元ダンサーの活躍の場を設けることで、スキルを高めるチャンスとします。</p>	<p>達成 舞踏シーンに子どもたちを起用し、オペラ舞台出演の体験を通じて育成を図ることができました。普段は自己表現として活動することが多いダンス・バレエ関係者が、オペラに必要な表現としての踊りを体験し、多少の戸惑いはあったようですが、概ね演出家の要請に対応できたと思います。総合芸術の難しさは、他との協調であり、調和を保つことですが、高いレベルでクリアできました。</p>	<p>達成 ほのぼのとして良かったと、観客の目には映ったかと思います。総合芸術の協調と調和は必須だと思います。それを実現していく苦労が、観客には面白く、楽しく映るのです。その意味で、今回は満足しました。ただ、可愛いだけでは済まされないと感じた評価委員がいたこともお伝えします。</p>

鑑賞者の育成	<p>本公演半年前に、「魔笛」ガラコンサートを実施し、オペラの楽しみへの誘いとします。内容はお芝居したてで、誰でも楽しみながら芸術の高みを体験できる仕組みを作ります。</p>	<p>達成 音楽だけではなくお芝居を一部取り入れたガラコンサートを本公演半年前に行うことにより、オペラの基礎である音楽＋芝居を気軽に体験していただき、本公演につながることができました。</p>	<p>達成 ガラコンサートの効果は抜群だったかと思います。鑑賞者の育成の王道として次回も挑戦して欲しいです。「パパゲーノ」がコミカルで抜群の演技力だったのも、大衆ウケした要因かと分析しました。その意味で、本公演への期待が膨らんだと思います。ただ、古典的なオペラを追求して欲しいという意見も評価委員の中にはありました。</p>	
	<p>ゲネプロを公開します。小中学生とその親御さんを招待し、オペラ未体験の方々を魅了するオペラを提供します。</p>	<p>達成 初めての試みでもあり、参観希望の数は少なかったものの、「充分に楽しんだ」との感想をいただきました。また、とりアート関係者(役員)の方にも多くお出でいただき、初オペラ体験になったと好評でした。</p>	<p>達成 この手の挑戦は今後必要だと思えます。小さな活動だとは思いますが、より身近に楽しむことができる場面です。地道にコツコツといった活動に入りますが、意外と大きな効果を生むかもしれません。</p>	
人材育成	アートマネージャーの育成	<p>オペラ公演に必要なマネジメントを「総合」「ソリスト」「合唱」「練習」と分割することで専門的なスキルを高めるとともに、舞台創作の土台作りを、体験を通して学んでいただきます。</p>	<p>一部達成 オペラ公演という大きなプロダクションは、一人のプロデュースでは賄いきれません。そこで、四つの分野に仕分けして、担当者を配置しましたが、一部機能せず練習が大幅に遅れた分野がありました。実務をこなせる人材の活用が、今後の課題です。</p>	<p>評価せず 実地検証ができておらず、「評価せず」とします。舞台裏の重要な活動を担うマネージャーの育成は、いかなる活動にも不可欠です。特に専門性の高い部門では、別途実務の研修等、大きなスパーンで考察する必要があります。とりアート事業の裏方育成を真剣に検討する時かもしれません。</p>
技術者の育成	<p>練習ピアニストとして、鳥取ピアノ指導者協会のメンバーに参加して頂き、オペラの伴奏法を学習して頂きます。ピアノはオーケストラであるとの認識と、それを担保するスキルが必要であり、事前に研修会をやることでスムーズなオペラ練習会を支えて頂きます。</p>	<p>一部達成 参加して頂くピアニストの方には、事前学習会を開いてもらい、オペラ演奏の基礎を学習して頂くことになっていましたが、ピアニストによってムラがあり、ソリストのレベルについていけないことがあるなど練習会に支障が出ました。今後の課題です。</p>	<p>評価せず 実地検証ができておらず、「評価せず」とします。練習ピアニストのレベルアップは大きな課題だと思えます。常日頃からオペラに親しんでくれるメンバー作りが必要だと思えます。鳥取ピアノ指導者協会にとりアート事業についての理解と協力をいかに拡大するか、県レベルで再検討するのも必要かと思えます。</p>	
	<p>オペラの合唱は、本格的な発声法に支えられたスキルが必要であり、基本的なレッスンをさせていただきます。更に、合唱チームとして初めての体験となるドイツ語の発音講習を行い、スキルアップを目指します。</p>	<p>未達成 本番での合唱は奇跡的に崩れませんでしたでしたが、練習開始が大幅に遅れ、練習がほとんどできていなかった点は反省が必要です。実施体制など今後の課題です。</p>	<p>一部達成 ドイツ語を観客がどれだけ知っているのか？という点で、理解度が違ってきますが、練習があまり出来なくても崩れなかったとは幸運だったのかもしれませんが。ただ、当初の目標を達成できなかった反省を次回に活かして欲しいです。特記したい点は、4/25 にはドイツ語の専門家による特訓が開始されており、スキルアップへの努力を垣間見ました。</p>	

人材 育成	技術者の 育成	オーケストラ編成は、県内外のスキルの高い奏者を招聘し、オペラ指揮のベテラン指揮者の薫陶を受け、高いレベルでの演奏を目指します。	概ね達成 県内外のアマチュア演奏家が結集したオーケストラであり、「オーケストラがアマチュアと知って驚きました」と聴衆に言わしめるレベルの高さがありましたが、一部ミスが目立ったパートもありました。	概ね達成 高いレベルだったと思います。発表へ至る練習の段階で、専門家の薫陶を受けることがスキルアップとモラルアップにつながると思います。
		総括	73.7%	84.4%



【成果】

・演出・歌・オーケストラ・舞台装置・衣装・照明等全ての出演者が一体となって良い舞台にしようと気持ちを一つしておられる熱意が伝わってきました。県内レベルの向上に貢献したと感じました。声量・ドイツ語の発声・芸術的舞臺設定・管弦楽団の質の高い演奏・地元有志の賛助出演など、練習の成果が舞臺に大いに発揮されていました。

【課題】

・表面に現れない出演者の不満が実施者アンケートにあります。不調和音が背景にあっては、公演そのもののグレードアップにつながりません。常に付きまとう問題だと思いますが、改善の努力を期待します。

・また、目標入場者数は達成されていますが、2階席に空席が目立ったのは残念でした。動員についての検証と対策の必要性を痛感しました。

【その他事業に関する意見、感想など】

・成功裏に終えることが出来たのは、中央からの実績のある方の招致に起因するところが大きかったと考えます。また、練習や地元出演者の不満がくすぶっている現実を見ると、もう一度とりアートの原点に立ち返り検証すべきと考えます。

・一方、主要出演者は一定の評価を受けておられる方々であり、その意味では内容・演奏のレベルにややもの足りない面も感じたとの意見もありました。

・また、本番直前のダンスリハーサルを見学に行った評価委員の報告を要約します。

①ダンスリハーサルは、舞臺関係の位置情報が完全に振り付けの先生に伝わっていなかった等行き違いがあったようです。時間の経過に従い、スムーズに展開していきました。

②舞臺袖・舞臺装置裏などの安全性は十分配慮されていました。楽屋通路の準備、段取り等は質の高い状況でした。通路のホワイトボードを見たとき、出演者の熱い思いが記されており、思わず頭が下がりました。



県民による第九米子公演(県民による第九公演実行委員会)

平成27年11月29日(日) 米子市公会堂

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	ベートーヴェン作曲の交響曲第九番を昭和60年から30年以上にわたって公演しており、既に県民に広く定着しているこの事業をさらに継続、発展させます。	達成 各方面からのご援助により成功裏に公演を終えることができました。出演者も練習を重ねて、質の高い演奏をすることができ、鳥取県民第九の伝統を受け継いだという誇りをおのおのが持つことができました。	達成 30年もの間演奏会が継続されていることは素晴らしいことである。今後更に発展させるための具体的な工夫はどうか。合唱はご年配が多いので若い人が増えるともっといいと思う。
		プロとの連携・協働により事業の質の向上に努めます。プロの指導、またプロ奏者とともに演奏することにより県内奏者の技術を向上させます。	達成 指揮者のわかりやすく妥協しない指導は団員の心をつかんでおり、そのためにモチベーションが相当上がったものと思われます。プロ奏者と並んで演奏することにより、オーケストラ奏者も見習って刺激を受け、演奏技能の向上につながっています。ソリストの声の出し方、また立ち居振る舞いにプロ意識の高さを見て、目標にしたいという団員の声も聞きます。	達成 プロの指揮者を招き、演奏へのモチベーションが向上し素晴らしい演奏につながっている。プロ奏者との共演もアマチュア奏者の演奏の向上に大いに寄与しているようだ。
創造	質の高い文化芸術活動	県出身である若いプロ奏者の出演を依頼し、豊かな音楽性と高い演奏レベルを公演に生かします。	達成 当県出身の若手ソリストはいずれもこれからの可能性を大きく感じさせる歌唱をしてくれました。	達成 県出身の若手プロの演奏は育成におおいに寄与している。ソリスト以外、オーケストラにプロ奏者の参加はあったのか。あればプログラムにでも紹介があればよいと思う。
		出演者を公募し、広く県民が文化芸術活動に携わる機会を提供します。	達成 オーケストラ、合唱とも団員を公募しました。特に合唱は、各ホール、公民館に募集要項を配架したほか、新聞にも募集記事を掲載しました。また、複数のベテラン団員に要項を持って歩いてもらい、口コミでの募集にも努めました。結果、数多くの男性団員の応募につながりました。	達成 新しく公募で加わったオーケストラ・合唱団のメンバーがどれくらいあったのか。新しい人を増やす工夫を御願いたい。

拡 大	県民への鑑賞機会の拡大	障がい者や高齢者、乳幼児のいらっしゃる方でも気軽に鑑賞できる環境作り(託児対応、バリアフリー等)に努めます。	概ね達成 今回初めて無料託児サービスを実施しました。その結果、利用して鑑賞された方があり、事故なく実施することができました。アンケートに「託児室のことをもっと大きく書いてあればよかった」と感想があることは受けとめて、次回は改良したいです。 障がい者や高齢者の方に対する配慮については、事前にスタッフの中で何度も打ち合わせをしました。最大限温かい対応ができたと思いますが、施設的な限界(エレベーターがないなど)もあり、ご不便をおかけした部分もあったのではないかと思います。	概ね達成 託児対応、バリアフリー等への対応は当然必要だが開場まで外で待つ時間をなんとか配慮できないか。 高齢者や障がい者に優しいスタッフの対応が良かった。 託児案内は早期にポスターやチラシで案内すれば若い人への集客が増えるだろう。
		広く県民への周知を図るため、ポスターの掲示やチラシの配布をはじめ、テレビ、ラジオ、新聞、インターネット等、様々な媒体を利用した効果的な広報に努めます。	達成 ポスターの掲示については、団員にも広く協力を呼びかけたところ、従来から掲示してもらっている各施設に加え、多くの、しかも多様な箇所に掲示することができました。BSS テレビ・ラジオのスポット CM、日本海新聞への紹介記事の掲載も効果的で、プレイガイドでの売り上げ増につながったと思われます。	達成 座席が満席のことを思えば効果があったのではないか。ただ満席が1000席なのは物足りない。もっと多くの人が聴きたいのではないか。音響効果等のこともあろうがキャパの多いビッグシップではどうか。多くの場所でポスターを目にした。広報等を通して宣伝効果が良かったようだ。
		公演時に公演関連解説に努めるなど、誰でも気軽に文化芸術に触れられるような工夫を行います。	達成 演奏前に指揮者より曲目について解説をしていただきました。「わかりやすかった」「親切だった」と好評でした。	達成 新しい試みとして開演直後に指揮者から曲目の解説があり有益な情報を得て演奏を聴けたのはよかった。よい取り組みである。
育 成	人材育成(指導者、後継者等)	公演当日のスタッフに出演者が携わり、公演以外の企画運営にも携わる機会とします。	達成 出演者が中心となって企画運営をしてきたので、当日も受付スタッフとして数人が加わりました。出演時間との絡みがあり大変でしたが、お客様とじかに接することにより様子がよくわかり、これからの運営に生かしていけそうです。	達成 企画運営は出演者が中心となって取り組むことはよいが、演奏会当日は演奏に集中させてあげたい。スタッフ等への謝礼は予算の枠組みがあるので有効に活用されたらよい。

育 成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	高校生以下の当日入場料金を前売と同額とし、当日でも気軽に入場できるようにします。	未達成 高校生以下の当日券が1枚しか出ませんでした。前売りの売り上げ枚数も少なく、この年代の鑑賞者をふやすことが今後の課題です。	未達成 若い力を育成するには、学校へのPRや招待券の配布を考えてはどうか。 合唱への参加を高校や中学の合唱部・吹奏楽部へ呼びかけたらどうか。 ゲネを総見にして高校生以下を招待するなど、まず興味を持ってもらう仕掛けが必要ではないか。
		総括	85. 2%	85. 2%



【成果】

- ・ソリスト、オーケストラ、合唱とも充実した内容であり、長年の蓄積の成果である。素晴らしい。
- ・観客が開場まで外で並ばれる人が多かったからか開場を10分繰り上げされたのは適切であったと思う。
- ・実行委員会の他に、第九米子推進委員会や第九米子公演を育てる会が「米子第九」を大いに盛り上げていく後ろ盾になっているのは素晴らしい。今後も各方面でご尽力を御願いたい。

【課題】

- ・東部地区、中部地区と違い開場前に外で並ぶことについてだが、1時間前から観客の並ぶ姿があり開場10分前には300人前後の人々が寒い中並ばれていた。幸いにも天候に恵まれたが、雨や雪が降ることも想定できる時期なので何らかの工夫が必要ではないか。中にはご年配の方や障がいのある方も見受けられた。指定席を設けるとかロビーまで入れるようにするとか、何らかの工夫をお願いしたい。
- ・ソリストの紹介はプログラムであったのがオーケストラの中にもプロで活躍されている人がいる。プログラムで少しでも紹介され多くの人に知っていただければ、幅広い支援を期待できるのではないか。
- ・第九の演奏会が始まって30年を迎える。若い年代の育成をどう仕組んでいくのか。合唱メンバーは熟年メンバーが多くみられ充実した内容ではあるが、次代を担う若い力(高校生等)をどう育成するのか課題であろう。
- ・公会堂での演奏会は地元の人にとっては大きな意義があるろうが、駐車場が一切なくご年配や障がいのある人にとっては不便である。一般来客にとっても周囲の駐車場は全て有料で、無料は市役所の駐車場だけであり歩くには遠く時間がかかる。公会堂周辺の有料駐車場を4時間くらい貸し切りにして無料にするとか、米子駅から無料シャトルバスを運行するとかの工夫はどうか。駐車場がないのは不便を感じる。
- ・高校生、中学生が合唱やオーケストラに参加できる方法を考えて欲しい。学校の合唱部などを通して勧誘し参加できる機会を作ってあげたい。
- ・会場の参加者に歌詞を配布するなど、合唱部分を体験してもらうなど参加型イベントとして取り組んではどうか。
- ・演奏中の携帯電話のマナーや手荷物の音などが気になり演奏を聴くのに差し障りがあった。マナーを放送だけでなく場内整理などの担当にお願いし事前に徹底してもらいたい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・公会堂の音響効果はどうなのか。
- ・1曲目と2曲目の間に15分の休憩があったが必要か。第九の始めから合唱団が入っていたので、ソリストだけの退入場でよかったように思う。
- ・開場まで外で待つのは辛い。何らかの工夫をお願いしたい。
- ・プログラムの挨拶の中で、西部地区の第九が特に好評であると書いてある。三地区の演奏会を聴いているが各地で工夫された演奏会が持たれており西部地区と同様、素晴らしい演奏会である。「県民の第九」であることを考慮され西部地区だけでなく県内各地(或いは県外からも)から観客があることに配慮をお願いしたい。
- ・招待席が後ろからわかりにくく、空席と思って来られる方が多くあったのでわかりやすくしてあげればと思う。



第37回鳥取県書道連合会展(鳥取県書道連合会)

平成28年3月4日(金)～8日(火) 米子市美術館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	役員による特別展示「童謡・唱歌を書く」を併催し、童謡・唱歌のふるさと鳥取との文化コラボレーションを図る。	達成 役員34名による特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく読みやすいことから鑑賞者の反応は良く、アンケートで満足、大変満足を選まれた方々の大きな理由となっている。また、オープニングセレモニーのピアノの演奏も好評を博した。	達成 「童謡・唱歌」はなじみやすく、書の面白さを幅広い世代に示す好ましい取り組み。漢詩等の書道作品が持つ独特な大陸型で男性的な印象に対し、特別展示では女性的で日本人らしい細やかさと、ふるさと鳥取の文化が書に溶け込んでいると感じた。ギャラリートークでは、水墨の濃淡・筆の力で多様な表現が可能であり、紙面に墨を滲ませ、数日後浮かした上に重ねる等、秘技の解説が良かった。
		約700名の会員の中から、150人を選抜し、展覧会の質の確保を図るとともに、知事賞他の賞を設け、競い合う中で、書道技術の向上を目指す。	概ね達成 会員151(顧問2名を含む)による選抜展として、ある程度の質の確保は図ることができた。知事賞、県議会議長賞、県教育長賞を各機関からいただき、出品者のモチベーションアップは図れたものと思われる。賞対象外の無審査出品者のモチベーション維持が課題。	達成 出品作家を選抜しコンペ形式とする事で、創作意欲を高め質の高い作品が並んだ。配布パンフレットの挟み込みに受賞作品の審査講評があり鑑賞の参考になった。
創造	質の高い文化芸術活動	オープニングに、ピオラ奏者をゲストとして招き、唱歌を演奏していただくことにより、特別展示「童謡・唱歌を書く」とのコラボレーションを図る。	達成 オープニングセレモニーに、県内在住のプロのピオラ奏者による唱歌の演奏を取り入れ、音楽とともに開会した。開会式参加者に大変好評であった。	達成 ゲストのピオラ奏者は、美術館での演奏に慣れていて演奏に定評がある、三朝バイオリン美術館の芸術監督であり、人選も的確なコラボであった。他ジャンルの芸術家に演奏のチャンスを提供する。一方で、来場者はプロが奏でる童謡・唱歌を楽しく聞き、優秀な音楽家が県内に居住すると認識したと思う。
		「童謡・唱歌を書く」の特別展示により、ややもすれば難しいイメージのある書道について、読みやすく、親しみやすい作品を鑑賞していただくことで、楽しんでいただく。	達成 役員34名による特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく読みやすいことから鑑賞者の反応は良く、アンケートで満足、大変満足を選まれた方々の大きな理由となっている。また、オープニングセレモニーのピアノ演奏も好評を博した。	達成 「童謡・唱歌を書く」の作品は、それぞれに工夫が凝らされ、書に馴染みの薄い来場者にも親しんで鑑賞してもらいやすい。鳥取県民は童謡・唱歌に深く馴染んでいる、また、日本人はひらがなを愛する文化を持つ、この二つの要素が掛け合って、特別展に引き込まれた。成功だと感じた、中海テレビで特別展を放映した。
		新聞広告をはじめ、新聞記事掲載の働きかけ、及びポスター・チラシ・DM・駅への立て看板によって、広く広報する。	達成 開会直前の新聞記事掲載(広告を出すことと記事掲載(バーター)は、文化に造詣の深い有識者に依頼し、良い宣伝となった。ポスター・DMのほか、作品写真が十数枚入ったチラシ、立て看板で広報を行った。また、NHKの告知ローナーにも出展した。	達成 文化に造詣の深い有識者が寄せられた書道展の案内が3/1の日本海新聞に掲載された。看板、ポスターにとどまらず、NHKの告知ローナーなど多角的な広報に取り組んだことが1000人以上の来場者という成果につながったのだろう。ポスター、看板の色も目を引いて良かった。特別展示のギャラリートークを中海テレビが取材・放映しPRになった。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	受付に出品者を中心に作品を説明できる会員を常時2名以上配置し、鑑賞者の鑑賞の手助けを行う。	達成 受付に出品者を中心に作品を説明できる会員を常時2名以上配置し、鑑賞者の鑑賞の手助けを行った。	概ね達成 解説できる会員の配置に実際に取り組みされたとのことで達成したいところだが、受付時に、作品説明のできる会員が配置してあり、要望に対応するという案内が無く、代わりに釈文とパンフレットが鑑賞の手助けとなった。2会場とも2人ずつ受付を配置し、来場者の質問に答えるなど、細かいナビゲーションを実施していた。受付から来場者にアンケートの声掛けが欲しかった。会員の配置は実行されていたが、声掛けはなかった。アンケートの中で会員同士の私語の指摘があった。

育成	人材育成 (指導者、 後継者 等)	約700名の会員の中から、150人を選抜し、展覧会の質の確保を図るとともに、知事賞他の賞を設け、競い合う中で、書道技術の向上を目指す。	概ね達成 会員151(顧問2名を含む)による選抜展として、ある程度の質の確保は図ることができた。知事賞、県議会議長賞、県教育長賞を各機関からいただき、出品者のモチベーションアップは図れたものと思われる。賞対象外の無鑑査出品者のモチベーション維持が課題。	概ね達成 質の確保としては達成だが、質の高い活動に絞ることがイコール「指導者、後継者の育成」に直結するかどうかは疑問。例えば後継者育成につながる賞を設けたり、ワークショップを開催するなど、より具体的な育成目標を掲げて取り組んで欲しい。ただしすでに質の高い活動者が、賞を目指して技術向上を図ることは指導者育成に寄与する面もある。会員外や若い世代に向けて育成しようとする試みも必要だ。
		図録を発行することで、記録していくとともに、出品者の歴史に残るといふプレッシャーから作品制作への高いモチベーションにつなげ、一方で、会員及び書愛好者の書上達への縁(よすが)とする。	概ね達成 図録を発行。どこまで、モチベーションアップに繋がったのかは、少々図りづらいところ。会員諸氏が今後の作品作りに当図録を参考にされることを期待。	概ね達成 立派な図録を発行し、記録として残すことは書道連合会の将来の歴史財宝となる。図録として形に残し、自身を振り返ることで技術の向上に努める。また今後書道を目指す人には参考資料となる、など、果たす役割は大きいと考えられる。目標としたモチベーション向上の成果は図りかけたため概ね達成。
総括		87.5%	87.5%	

【成果】

- ・アンケートに、今回が初めてと回答した来場者が4割以上あり、新たな鑑賞者の発掘ができていた。
- ・来場者が目標を大きく上回る1000人超となった。鑑賞動機(来場した理由)のトップは、「出品者に関係者がいた」であり、出品者の積極的なPRも寄与したと考えられる。
- ・「童謡・唱歌を書く」は、書道ごなじむことの薄い来場者にも分かりやすく、鑑賞者の窓口を広げることに貢献している。
- ・絵画や彫刻といったアートに比べ、書道は漢字やかな文字で美を表現する、さらにその文字や文章の意味を理解する為にある程度の知識が必要だ。特別展示の試みは書に対する親しみを持たせ、ハードルを下げた、そして幅広い世代への普及や今後の人材育成につながるものと評価する。
- ・展示室は明るく静かで、落ち着いて鑑賞できる雰囲気であり、観客が満足するとともに、次回の「作品との出会い」に期待を持たせる作品展であった。
- ・開会式の後、急きょ柴山会長のギャラリートークが行われた、観客の審美眼を養う上で良い内容であった。

【課題】

- ・アンケートの回収率が目標を下回った。アンケート回収コーナーは出口の分かりやすい位置にあったが、スタッフによる記入への声掛けはなかった。ひと声掛けすると回収率向上につながったのではないのか。
- ・来場者の年齢層割合で20~30歳代が少ない。特に30歳代は1名のみ。近年、書道パフォーマンスなどで高校の書道部の中には勢いがあり素晴らしい学校も多く、若い世代にも書道の魅力を理解している人が増えてきている。もちろん現実的には、それらがすぐに書道展の鑑賞者に直結しない面もあるが、下地はできているので今若い世代の来場者が増えるような取り組みを展開していく必要がある。
- ・童謡・唱歌というテーマは興味を引くが、一定の期間継続した後は、マンネリ化を防ぐためにも新たな企画への挑戦が必要となるのではないのか。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・アンケートで、複数の鑑賞者が「受付のおしゃべり」を指摘し、今後の工夫(改善)を求めている。ずっと無口は無理だが、節度を持って対応するのが好ましい。
- ・書いてある文字だけでなく、その意味も加えることでより理解が深まり、親しみやすくなるのではないのか、とアンケートで要望された。書道文化がさらに発展する為には分かる人に分かれればいいというのではなく、多くの人に理解して頂きたいと歩み寄る姿勢も大事であろう。
- ・掛け軸の書を特別展で企画して欲しい。また、茶室があり、床の間に掛け軸があるといった雰囲気はどうだろうか？
- ・童謡・唱歌のコーナーでは静かな音で実際に音楽を流しても良かったと感じた。



IV 専門家評価

第13回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2015 メイン事業

オペラ「魔笛」

平成27年11月15日（日） 倉吉未来中心

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター講師 筒井 宏樹

1. はじめに

オペラ「魔笛」は、鳥取オペラ協会の関係者を中心に、鳥取県合唱連盟、鳥取県洋舞連盟、鳥取県オーケストラ連盟、鳥取県ピアノ指揮者協会、とりアート中部地区実行委員会が連携して組織した「とりアートオペラ公演実行委員会」によって実施された事業である。

本事業の位置づけである「とりアートメイン事業」は、文字通り「とりアート」全体のメインイベントであるが、「とりアート」開始から10年が経過したことを契機に、1000名を超える鳥取県民からのアンケートに基づき、これまでの成果と課題を検証し、県民のニーズがより反映されるよう再スタートとなった。本事業は、2013年度メイン事業「とりアートスペシャルコンサート『鳥たちの音楽祭 ～FLY HIGH!』」（とりぎん文化会館 [梨花ホール]）、2014年度メイン事業「創作ミュージカル『アオイ』」（米子市公会堂）に続いて、その3回目となる。

2. 基本方針に基づく評価

(1) 企画意図

本事業は、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが1791年に作曲したオペラ¹「魔笛」の公演である。「魔笛」の公演は、「県内オペラ団体の念願」であり、今回「満を持して」のタイミングであったように²、主催団体の強い意向によって実現された。「とりアートメイン事業」においてモーツァルトのオペラ「魔笛」という選定についてまず検討していきたい。

「とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）」におけるかつての「メイン事業」では、新・朝日座新歌舞伎「名和長年」（第7回）、演劇「八賢伝」（第9回）など、県内東部・中部・西部の各地域に埋もれている身近な文化資源を題材に求めることが多かった。それについて、「とりアート構想の実施にあたる手引き」によると、「観客の視点に立った事業展開ができていない」「テーマ、ジャンルの決め方に透明性及び柔軟性が必要」「歌舞伎をはじめとする古典に執着しすぎている」といった問題点が挙げられていた³。

この点において、今回のオペラ「魔笛」はどうだろうか。オペラ自体は、一般に言われるとおり、音楽・演劇・文学が一体となった総合芸術の最高峰であり、また、上演のために莫大な費用がかかるため、ミュージカルや演劇に比べても、本格的な上演の機会が少ないことを考慮すると、とりアートメイン事業のような機会こそがそれを実施するに相応しいように思われる。オペラは、メイン事業の理念のひとつである文化的な「頂点の伸長」という観点からしてもよく適った芸術であるといえる。

それでは、オペラのなかでも「魔笛」という作品選定についてはどうだろうか。「魔笛」はオペラの古典である。主催団体によれば、この古典作品は「人類全体へ向けられたメッセージ（兄弟愛と幸福、人生をいかに歩むか、愛をどう育むか）」を県民へ届けるものであり、「その面白さは子どもから大人までも、微笑をもたらす、音楽の喜びに満ち溢れることでしょう」と説明がある⁴。「魔笛」という古典作品の選定は、「観客の視点に立った事業展開」かどうかという観点からすると疑問がないわけではないが、普遍的なメッセージがこめられた作品であり、年齢的にも幅広い層に届くはずであるという主催団体の熱意が伝わるものである。

実際の公演を体験することで、主催団体の意図がより明確に伝わる場所があった。それは近年、日本においても主流になりつつあるドイツ語の原語上演（日本語字幕付き）という本格的な形式にもかかわらず、今回の「魔笛」は、日本語部分の芝居と演出がよく工夫されていたため、ユーモラスで非常に

¹ 正確には「ジルクシュピール（歌芝居）」

² とりアートオペラ「魔笛」のチラシより

³ 「とりアート構想の実施にあたる手引き」、p.7

⁴ とりアートオペラ「魔笛」のチラシより

敷居の低いものに仕上がっていたからである。プレトークで演出家の中村敬一氏が説明するところによると、今回の舞台は、「魔笛」の原作の舞台であるエジプト・アレクサンドリアの砂漠を「鳥取砂丘」に見立てているとのことであった。両者の地域は多神教の地としても共通し、こうした今回の演出によってもたらされた「魔笛」の二重性が、一方で原作に忠実で本格的な形式を、他方で間口の広い親しみのある芝居を可能にしていたように思われる。

(2) 実施手法

「とりアートオペラ公演実行委員会」によって実施されたオペラ「魔笛」は、鳥取オペラ協会を中心とする鳥取県内の各団体の連携によって実現したものである。2年間以上にわたる準備期間のなかで、ソリストは、オーディションによって選ばれ、主に鳥取県や山陰を中心に活動する音楽家たちによって構成されている。そして、合唱もオーディションによって集められた。演出家と指揮者は、鳥取オペラ協会と関係の深い中村敬一氏、松岡究氏にそれぞれ依頼し、またオーケストラは、松岡氏が指揮を担当する、吉田明雄氏主宰のアザレア室内オーケストラが演奏を務める。水と火の精は、鳥取県洋舞連盟のダンサーが務め、またパパゲーノの子どもたちはリトルバレリーナの子どもたちが務めた。おろち神楽は、日野高校郷土芸能部によるものである。つまり、演出の中村氏、指揮の松岡氏以外のほとんどの参加者は、地元のメンバーで構成されている。

また、実施手法の特徴として、2015年5月10日に「魔笛」ガラコンサートを開催したことが挙げられる。事業実施団体「自己評価」によると、半年前にガラコンサートの実施したことで「ソリスト・オーケストラの練習期間が大幅に増え、スキルアップが図れた」とのことである。ガラコンサートは、本公演の宣伝効果にもつながった。

(3) 来場者の属性

「とりアートオペラ公演実行委員会」によって提出された事業評価シートによると、本事業の来場者数は、822人であった。また、アンケート結果（総数117枚）によると、性別は、男性35人（31.25%）、女性77人（68.75%）であった。これらはほぼ例年通りの比率である。来場者の年齢構成は、10歳代以下5.4%、20歳代8.0%、30歳代5.4%、40歳代9.8%、50歳代27.7%、60歳代27.7%、70歳以上16.1%で、50歳代、60歳代が一番多く、昨年度に比べて年齢層は高かった⁵（一昨年とは分布は似ているものの、やはり今年のほうがより年齢層が高くなっている）。来場者の居住地は、鳥取県中部39.3%、県東部27.35%、県西部16.24%、県外11.11%と、開催地である県中部以外の地域からも広く集まったことが特徴的であったといえる⁶。

(4) 観客の反応

アンケート結果によれば、本公演の「全体として」の評価は、「とても満足」と「満足」を合わせて、目標70%に対して、実際には91.5%であった。これは、過去の「とりアート」メイン事業の満足度と比較しても極めて高い数値といえる。例えば、昨年度のメイン事業も「全体として」の評価は94.4%と過去最高の数値であったが、「とても満足」だけで比べると、昨年度66.7%に対して、今年は70.9%と昨年度をさらに上回る数値であった。これは大いに評価されるべきだろう。

本公演の個別の評価項目として、「特に満足した点」は「演奏」「演目」「演出」と作品そのものの質に関わる要素が中心であったことから、実際に「魔笛」を鑑賞した観客の満足度の高さがうかがえる。「料金」も31人おり、オペラのチケットとしては比較的に安価であるとともに、「家族チケット」などの工夫が功を奏したのではないだろうか。「公演の長さ」は、チラシでは「16:30（予定）」のところを、実際には17時過ぎに終演したが、「特に満足」が17人おり、また「工夫したほうが良い」点で指摘する者はいなく、充実した公演内容によって、ほとんどの観客が時間を気にせず楽しんだことが推測される。

以上のように、観客の反応は総じて高評価であったといえる。アンケートの回収率は目標20%のところ、実際には14.2%であった。終演後、各出口でスタッフが積極的にアンケートの協力を呼びかけてい

⁵ 昨年度の来場者の年齢構成は、10歳代以下7.2%、20歳代10.2%、30歳代16.4%、40歳代21.9%、50歳代19.8%、60歳代19.76%、70歳以上5.23%であった。ちなみに一昨年は、10歳代以下8.9%、20歳代7.7%、30歳代8.5%、40歳代12.8%、50歳代20.9%、60歳代23.0%、70歳以上9.4%であった。

⁶ 前年度は、開催地である県西部が59.47%であった。

たことを思い返すと、意外な数値であった。「公演の長さ」が多少影響したのかもしれない。

3、公演に対する総評

私の感想を率直に言えば、今回の「魔笛」は非常に満足度の高い公演だった。それは2つの観点から楽しめたからである。第一に、地元の音楽家たちを中心としたメンバーが協力しあって、オペラという総合芸術のなかでも「魔笛」という古典を原語上演という本格的な形式で臨んだ姿が見られたこと。私自身は、鳥取県の音楽シーンを親しんで日が浅いものの、地元のソリストたちやオーケストラが人材的にも充実し、また長年の研鑽の末、年齢構成的にもまさに「満を持して」のタイミングであることが今回の公演を通してひしひしと伝わってきたからである。

そして第二に、そうした意気込みの感じられる「魔笛」にも関わらず、実際の公演は、他方でユーモラスかつ非常に親しみやすい演出によって、古典であるはずの「魔笛」を新しい形で体感することができたからである。AKB48の楽曲「フォーチュンクッキー」や、ラグビー選手の五郎丸や俳優の福山雅治など、時事的で若者にも親しみやすい題材を挟んだり、パパゲーノに至っては方言を使い出したりと、県民にとって身近に感じられるようになる工夫が随所に散りばめられた素晴らしい演出であったといえるだろう。

舞台美術や衣装や照明などはそれほど奇をてらったものではなく、むしろオーソドックスに感じられたが、それも基本的には原作に忠実な本格的な「魔笛」を目指したためであると理解した。

4、課題と今後の展開へ向けて

今回のとりアートメイン事業は、実際の鑑賞体験としては非常に満足度が高く、素晴らしい内容であったことをまず強調しておきたい。そして今回もっとも称賛されるべきことは、入場者数の多さだろう。目標が800人に対して、実際に822人の来場者を動員した。新生・とりアート以後、メイン事業でこれだけ来場者を動員できたのは素晴らしい成果といえる。今回の「魔笛」の成功によって、今後の鳥取県におけるオペラの発展を大いに期待したい。

そのうえで、あえて今後の課題を提示するならば、「来場者の年齢層の高さ」だろう。「家族チケット」などの工夫はあったものの、さらなる対策が必要であると考えられる。例えば、チラシデザインの方向性には検討の余地があったのではないだろうか。原作に忠実である意向は汲み取れるが、「プロビデンスの目」をメインモチーフとするデザインは、やや若者には馴染みにくかったかもしれない。公演の中だけでなく、公演の外でも「魔笛」という作品を親しみやすく普及させる工夫が可能なのではないかと思われた。

鳥取県文化芸術事業評価委員会

■委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
おのうえ あきら 尾上 明	新日本海新聞社記者	会長
なかむら ゆりこ 中村 由利子	アトリエ yuri (フラワー&アート工房)、ワークショップデザイナー	副会長
いしだ たけひろ 石田 健博	米子市民劇場会員	
いわさき るり子 岩崎 るり子	米子市文化協議会 (米子マンドリンオーケストラ)	
おかむら ようじ 岡村 洋次	元新日本海新聞社記者	
おぐら ひろし 小椋 博志	倉吉室内合奏団 (コントラバス)、元河北中学校長	
おざき しょうへい 尾崎 正平	打吹音楽倶楽部ブレーメン顧問	
こんどう えいこ 近藤 映子	鳥取女声合唱団団長、鳥取市文化団体協議会理事	
たなか のぶひろ 田中 信宏	cocorostore 代表	
なかの ゆみ 中野 ゆみ	鳥取大学4年生	
なんけ ひさみつ 南家 久光	行政書士 (南家行政書士事務所)	
まえだ なつき 前田 夏樹	鳥取短期大学生生活学科准教授	
みふね まい 御船 麻衣	鳥取二十世紀梨記念館なしっこ館	
むらた まゆみ 村田 真弓	鳥取県合唱連盟理事	
はまだ しげよし 浜田 重喜	一音会顧問、鳥取市文化団体協議会理事	

■事業別評価報告書執筆担当一覧

番号	主体	団体名	期日	事業名	実地検証 委員数	執筆委員 (●: 主担当)
1	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県ミュージカル 連盟	4月25日(土) 26日(日)	ミュージカル連盟第1回合同公演 ミュージカル「真名井の水は天の水」	3	●尾上会長 中村副会長
2	鳥取県	鳥取県地域振興部 文化政策課	5月24日(日)	第6回とっとり伝統芸能まつり	3	●岩崎委員 南家委員
3			9月19日(土) ～11月22日(日)	第59回鳥取県美術展覧会	9	●岡村委員 小椋委員
4	鳥取県総合 芸術文化祭 実行委員会	中部地区企画 運営委員会	10月31日(土) 11月1日(日)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015中部地区事業	5	●尾上会長 田中委員
5		西部地区企画 運営委員会	第1部 11月21日(土) 22日(日) 第2部 2月5日(金) ～2月8日(月) 3月4日(金) ～3月7日(月)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015西部地区事業	4	●前田委員 中野委員
6		東部地区企画 運営委員会	12月12日(土) 13日(日)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015東部地区事業	8	●中村副会長 御船委員
7		とリアートオペラ 公演実行委員会	11月15日(日)	第13回鳥取県総合芸術文化祭 とリアート2015メイン事業 オペラ「魔笛」	7	●南家委員 村田委員
8		県民による第九 公演実行委員会	11月29日(日)	県民による第九米子公演	7	●小椋委員 岩崎委員
9	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県書道連合会	3月4日(金) ～3月8日(火)	第37回鳥取県書道連合会展	4	●浜田委員 尾上会長

■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成27年 7月15日(水)	(1) 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱の一部改正について (2) 平成26年度評価対象事業改善計画の承認について (3) 平成27年度評価方針・評価方法等について (4) 平成27年度評価対象事業について (5) 平成27年度評価対象事業の現地検証及び執筆担当について
第2回	平成28年 2月5日(金)	(1) 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱の一部改正について (2) 自己評価や現地検証レポート等による意見交換 ※平成27年12月までに完了した事業 (3) 事業別評価報告書(案)の検討 ※平成27年12月までに完了した事業
第3回	平成28年 3月30日(水)	(1) 自己評価や現地検証レポート等による意見交換 ※平成28年3月に完了した事業 (2) 事業別評価報告書(案)の検討 ※平成28年3月に完了した事業 (3) 事業別評価の決定 (4) 要改善事項について (5) 総合評価について

※評価報告会(第1回:平成28年2月17日、第2回:平成28年3月30日)において、評価報告(案)について事業実施者と意見交換

鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

(委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

(委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

(組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

(会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

(会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域振興部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。

平成27年度

鳥取県文化芸術事業評価報告書

平成28年4月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会（事務局：鳥取県地域振興部文化政策課内）

電話 0857-26-7134

ファクシミリ 0857-26-8108